

科目名	発達心理学概論		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

発達心理学をこれから4年間学ぶ入門として、発達心理学とはどんな考え方の枠組のもとにどんなことを学ぶのか、について概観する。人は誰でも成長を経験し、また周囲の人の成長を見ている。このごく身近なことを心理学の目で見るとどうだろうか。人のどんな面をみるか、どんなやり方で調べるか、人生という時間をどう区切ってみるか、動物と比べるとどうか等々、いろいろな切り口から見る。また発達心理学の知識が社会でどう生かされるかということも考える。

内容

講義、およびテキストについての受講者の討議と発表により授業を進める。

1. 発達という考え
2. 人の発達についての考えの歴史
3. 発達心理学の歴史
- 4-5. 発達心理学の方法
- 6-7. 発達心理学の領域
8. 動物との比較からみた人間の発達
9. 発達の原理
10. 発達段階と生涯発達の考え
11. 人格の発達を通して乳児期から成人期までの発達を見る
12. 社会、文化のなかの発達
13. 発達心理学と臨床。
14. 発達心理学が役立つ社会。
15. 試験

評価

授業時のレポート(30点)、期末試験(50点)、および授業時の積極的な討論への参加(20点)。合格60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 柏木恵子他「発達心理学への招待」 ミネルヴァ書房

【推薦書】 平山諭他 「ライフサイクルからみた発達の基礎」 ミネルヴァ書房

無藤隆他 「よくわかる発達心理学」 ミネルヴァ書房

科目名	発達心理学概論		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

発達心理学をこれから4年間学ぶ入門として、発達心理学とはどんな考え方の枠組のもとにどんなことを学ぶのか、について概観する。人は誰でも成長を経験し、また周囲の人の成長を見ている。このごく身近なことを心理学の目で見るとどうだろうか。人のどんな面をみるか、どんなやり方で調べるか、人生という時間をどう区切ってみるか、動物と比べるとどうか等々、いろいろな切り口から見る。また発達心理学の知識が社会でどう生かされるかということも考える。

内容

講義、およびテキストについての受講者の討議と発表により授業を進める。

1. 発達という考え
2. 人の発達についての考えの歴史
3. 発達心理学の歴史
- 4-5. 発達心理学の方法
- 6-7. 発達心理学の領域
8. 動物との比較からみた人間の発達
9. 発達の原理
10. 発達段階と生涯発達の考え
11. 人格の発達を通して乳児期から成人期までの発達を見る
12. 社会、文化のなかの発達
13. 発達心理学と臨床。
14. 発達心理学が役立つ社会。
15. 試験

評価

授業時のレポート(30点)、期末試験(50点)、および授業時の積極的な討論への参加(20点)。合格60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 柏木恵子他「発達心理学への招待」 ミネルヴァ書房

【推薦書】 平山諭他 「ライフサイクルからみた発達の基礎」 ミネルヴァ書房

無藤隆他 「よくわかる発達心理学」 ミネルヴァ書房

科目名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳幼児期は人生の基礎ができる大事な時期である。この時期の急速な変化が示す「人になっていく」過程は、私たちに人間の面白さを充分味わわせてくれる。このような発達のいくつかの側面について学び、乳幼児期が人の一生のなかでどんな意味をもつかを共に考えたい。またこの授業を子どもに対する理解や臨床活動のための基礎知識として役立ててほしい。

内容

できるだけ図、資料、映像を用いて、わかりやすい授業をしたい。

1. 乳幼児期の人生における意味
2. 新生児の能力
3. 身体と運動の発達
4. 個性の発生
- 5-6. 愛着と親子関係
7. 他者との関係の発達
- 8-9. 「自己」への気づき
- 10-11. 情緒と感情の発達
12. 言語とコミュニケーションの発達
13. 遊びと想像性
14. 年齢別のまとめ
15. 試験

評価

期末試験(50点)、授業時のレポート(30点)および授業時の積極的な討論参加(20点)。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】繁多進「乳幼児発達心理学」福村出版

【推薦書】柏木恵子他「新版発達心理学への招待」ミネルヴァ書房 2005

岡本夏木「子どもとことば」岩波新書

科目名	児童期の心理学		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい：児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面からとらえると共に、学童期の最も重要な側面として社会性育成の視点について理解を深める。

目標：これらの学習を通して、児童期の心理を理解するための基本的な枠組みを身につけ、実践に出る際の役立つための土台を形成する。

概要：自己概念や道德性の発達過程、遊びや仲間関係の発達・変化など、児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面。また同時に、児童虐待や発達障害など児童期の子どもたちに特徴的な問題についても取り上げ、児童への幅広い考察をねらいとする。さらに、家庭と学校の役割やその協働の重要性についても事例などを適宜取り上げながら学んでいく。

内容

講義の方針：子どもに関わる職業に就く学生や将来子どもを持つ学生にとって、学生自身の子どもの観を再認識し、新しい考え方や関わり方を広げていけるような講義を目指す。

講義の進め方：講義方式を中心に適宜ビデオ視聴や事例検討などを取り入れる予定である。教科書は使用しないが、講義内容をより深く理解するために推薦書などを利用した復習を勧める。なお、授業中もしくは授業後に、トピックに関する意見や感想などの提出を求めることもある。

内容：主に以下のトピックスを15回に分けて取り扱う予定である。

- 1) 児童期とは～イントロダクション
- 2) 児童の身体発達
- 3) 児童の認知の発達
- 4) 児童の自己概念と道德性の発達
- 5) 児童の遊びの理解
- 6) 児童の仲間関係の発達
- 7) 児童を取り巻く環境
- 8) 児童虐待と児童期
- 9) 発達障害と児童期
- 10) 児童期の事例検討

評価

【評価の方法】出席、講義への参加度、試験を総合的に評価する。配分は、出席：30点、講義レポート(講義中に数回課す予定)：20点、試験：50点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。

【推薦書】桜井茂男[ほか]著 『子どものこころ 児童心理学入門』 有斐閣アルマ 2003 371.45/S

【参考図書】授業中に適宜紹介します。

科目名	中高年期の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在の我が国には、さまざまな不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、経済的なものであったり、何らかの障害を心身に持つことであったり、特定の視点からみた場合に少数派であることであったりと多様である。

本科目は、このような前提にたち、1) 高齢期に特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか? 2) そのような不利益を被りながら生活する高齢者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか? 3) 社会的な不利益を被りがちな高齢者に対して我々が専門家としてまた市民として成し得ることは何なのか? の3点について学習することを目的とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「高齢者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。学習は、まず、題材に関するグループワークの形式により行う。次に、グループワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。

なお、授業展開の詳細は、講義回別に以下の通りとする。

第1回 ガイダンス：講義の進め方と成績評価方法

第2回 「幼児虐待・児童虐待と自分」：幼児虐待の現実を加害者の側から観てみると?

第3回 「幼少期の発病と支え合う想い」：小児病棟での子ども同士のかかわりあいの意味は?

第4回 「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実とは?

第5回 「優性思想と自分」：ハンセン病回復者に対する断種手術の現実とは?

第6回 「パートナーシップと自分」：パートナーとはどのような生きる意味を創造するのか?

第7回 「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差とは?

第8回 「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常とは?

第9回 「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆きとは?

第10回 「里親制度と血縁の意味と自分」：血縁があると自動的に血縁対象を愛するのか?

第11回 「女性に対する差別とジェンダーと自分」：インドにおける「結婚持参金殺人」とは?

第12回 「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実とは?

第13回 「代理出産ビジネスの現実と新たな生命を誕生させることの意味」子宮貸しビジネスとは?

第14回 「戦争と自分」：現代世界の紛争・内戦・戦争の実質的な担い手の「少年兵」とは?

第15回 「暴力の連鎖と一人の市民としての自分」(講義のまとめと小論文の作成)

評価

成績は、合計100点満点を、『出席』が28点、『平常点(グループ学習への取り組み状況や毎回の小レポート)』が42点、『期末レポート』が30点の構成にて配点し、それを基準に評価する。出席回数が授業全体の2/3未満である場合

には欠席とし、評価の対象としない。

平常点とは、講義中の『グループワークへの取り組み姿勢』と、題材として提供した内容に関する『真摯な向き合いの態度』を表現した結果としての『小レポート』により評価する。レポートとは、講義最終回にその場で作成・提出を求める小論文を指す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用しない。

科目名	母子関係論		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

人間関係の最も基礎的なものとして、母と子の関係があげられる。

受胎からすでにこの関係は始まっている。出産を契機に、母子の肉体は分離していくが、代わってメンタルなつながりが発生してくる。このようにして生後1年を迎えるころ人間発達の核ができあがっている。

このプロセスについて、D.スターンの考えやC.トレバーセンの考えを紹介し、次に鯨岡らの日常場面における母子の観察を再考してみることにする。

その他、クラインやワロンの母子関係に関する理論についてもふれてみる。

内容

1	D.スターン：4つの自己感（1）新生自己感
2	同：（2）中核自己感： 自己対他者
3	同：（3）中核自己感： 他者と共にある自己
4	同：（4）主観的自己感： 展望
5	同：（5）主観的自己感： 情動調律
6	同：（6）言語自己感
7	C.トレバーセン：第1次相互主体性
8	同：第2次相互主体性
9	鯨岡：誕生から初期の一体的関係が成立するまで：（1）誕生以前（2）出産時
10	同：（3）新生児期（4）愛着の成立
11	同：「共にある」あり方の多様化：（1）通底性（2）対象定位能力
12	同：（3）寝返る、這う（4）お座り
13	同：（5）対面遊び
14	通じ合う関係の萌芽
15	クラインとワロンの母子関係に関する理論

評価

レジュメを作り、発表することで40点。

期末レポート30点

平常点30点

合計点が60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】浅井潔編 発達心理学 大学図書出版 2008

【推薦書】D.スターン、小此木啓吾他訳 『乳児の対人世界』 理論編 岩崎学術出版社 2005

鯨岡峻著 『関係発達論の展開』 ミネルヴァ書房 1999 376.11/K

【参考図書】鯨岡峻編、訳著、鯨岡和子訳 『母と子のあいだ 初期コミュニケーションの発達』 ミネルヴァ書房 1989

科目名	ライフサイクル論		
担当教員名	塩谷 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

人の一生をライフサイクルととらえ、その歩みを生涯発達の視点からみてゆく。エリクソンのライフサイクルの理論を援用して、それぞれの段階の課題と危機について学び、一生の歩みを理解すると共に、危機への対処方法について考えることを目的とする。

内容

講義方針：授業の前半を講義形式で、後半は具体的事例やトピックスについてグループで話し合い、討論結果を発表するなどして理解を深める。

授業計画：

- 第1回 ライフサイクルの理論と諸問題
- 第2回 乳幼児期～幼児期前期
- 第3回 幼児期後期～就学まで
- 第4回 児童期(小学生)
- 第5回 思春期前期(中学生)
- 第6回 思春期後期(高校生)
- 第7回 青年期前期(大学生)
- 第8回 青年期後期(学生と社会人の間)
- 第9回 成人期 社会人として
- 第10回 成人期 社会人・家庭人として
- 第11回 中年期(壮年期)
- 第12回 老年期
- 第13回 女性とライフサイクル
- 第14回 ライフサイクル全体のまとめ
- 第15回 レポート・テスト

評価

平常点(30点)、レポート・テスト(70点)を評価の対象とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】馬場禮子・永井徹共編 『ライフサイクルの臨床心理学』 培風館 2004(初版第13刷)

【参考図書】岡本祐子・松下美知子編 『新女性のためのライフサイクル心理学』 福村出版 2002

科目名	言語の発達		
担当教員名	内田 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

言語と認識の関わりからの視点から、以下の5つのトピックを取り上げ、人間発達過程について理解するとともに、言語発達・認知発達の発達心理学的研究方法論の基礎を理解する。

内容

- 1.人間発達の可塑性(1) 養育剥奪の6つのケース
- 2.人間発達の可塑性(2) 子どもが発達するのにどのような要因が不可欠か
- 3.人間発達の可塑性(3) 人間発達の可塑性
- 4.言語・認知の発達(1) 言語獲得に制約を与える生物学的基礎
- 5.言語・認知の発達(2) 第2言語の獲得
- 6.言語・認知の発達(3) 大脳機能と言語獲得の関係
- 7.想像力の発達(1) 既成のものを乗り越える想像のメカニズム
- 8.想像力の発達(2) 想像力の発達過程
- 9.想像力の発達(3) 想像と創造の関係
- 10.読み書き能力の獲得(1) 入門期の読み書きの学習
- 11.読み書き能力の獲得(2) 読み書き能力の獲得のメカニズム
- 12.読み書き能力の獲得(3) 書きことばの獲得と認識の変質
- 13.子ども理解(1) 現代日本の子どもの育ち
- 14.子ども理解(2) しつけと学校環境
- 15.子ども理解(3) 社会の育児機能

評価

講義への参加度(質問、討論)20点、講義終了時の授業へのコメント10点、期末テストレポート70点で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書:内田伸子 発達心理学—ことばの獲得と教育— 岩波書店、2002年版

推薦書:藤永保・斎賀久敬・春日喬・内田伸子 人間発達と初期環境 有斐閣、1987

内田伸子 子どもの文章—書くこと・考えること 東京大学出版会 1990

内田伸子 言語発達心理学 放送大学教育振興会 1998

内田伸子 想像力—創造の泉を探る— 講談社、1994

科目名	社会性の発達		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間は社会的な動物であり社会と関わり合うことなしに生きていくことは出来ない。社会に適応し、よりよく生きていくためには、自分の所属する社会での適切なふるまい方や社会のルールに従った行動を身につけていく必要がある。私たちは、生まれてからの発達過程の中で、こうした社会の一員として必要な様々な知識や行動を獲得していく。社会性とは「社会の一員であること」を意味し、その社会の一員へと発達していく過程を社会化とよぶ。この講義では、人間がどのようにして社会化を遂げ、社会性を発達させていくかについて、心理学的な観点から考えていく。受講を通じて、人間が社会の一員となっていく過程について、自分自身の問題ともあわせて理解を深めることを目標とする。発達過程における社会化に関わる問題として、社会性の基礎：愛着、家族関係と社会化、人間関係の発達、自己の発達、道徳性の発達、職業的社会化、などをとりあげ、これらの研究知見について解説していく。

内容

社会性の発達過程に関わる心理学的研究について講義形式で解説する。また可能な範囲で講義内容と関連する心理テストなどを実施したいと考えている。以下の内容を予定

- (1) 社会性の基礎：愛着
- (2) 家族関係と社会化
- (3) 人間関係の発達
- (4) 自己の発達
- (5) 道徳性の発達
- (6) 職業的社会化
- (7) 社会性に関わる2つの次元
- (8) まとめ 人の社会性とは

評価

期末テスト90及び出席点10点により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

【推薦書】永田良昭 「人の社会性とは何か」ミネルヴァ書房 2003

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

臨床心理学とは、何らかの心の問題や葛藤を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて援助をするための学問である。この授業では、臨床心理学の初歩的な知識を学ぶことを目的とする。具体的には、心の問題や精神疾患に関する専門的知識、心の状態を測定するための各種の心理検査法、そして問題に介入するための様々なカウンセリングの理論や技法について取り上げる。また、臨床心理学が現代社会にどのように生かされているか、実践領域での具体例も随時紹介していきたい。授業では、毎回簡単な演習を予定している。受動的に聴講するのではなく、自分の体験や生活と結びつけながら、生きた知識を身につけてほしい。

内容

1	臨床心理学とは何か
2	心の病 うつ病
3	心の病 統合失調症
4	心の病 不安障害
5	心の病 まとめと確認テスト・解説
6	心理検査 アセスメントとは何か
7	心理検査 投影法・描画法
8	心理検査 作業検査法・テストバッテリー
9	心理療法 コラージュ療法を理解する演習
10	心理療法 心理療法とは何か
11	心理療法 精神分析
12	心理療法 認知行動療法
13	心理療法 クライアント中心療法
14	期末試験
15	返却と解説

評価

小テスト（15点×3回=45点）と期末試験（55点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉原一昭監修 「はじめて学ぶ人の臨床心理学」 中央法規

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1,4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

臨床心理学とは、何らかの心の問題や葛藤を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて援助をするための学問である。この授業では、臨床心理学の初歩的な知識を学ぶことを目的とする。具体的には、心の問題や精神疾患に関する専門的知識、心の状態を測定するための各種の心理検査法、そして問題に介入するための様々なカウンセリングの理論や技法について取り上げる。また、臨床心理学が現代社会にどのように生かされているか、実践領域での具体例も随時紹介していきたい。

授業では、毎回簡単な演習を予定している。受動的に聴講するのではなく、自分の体験や生活と結びつけながら、生きた知識を身につけてほしい。

内容

1	臨床心理学とは何か
2	心の病 うつ病
3	心の病 統合失調症
4	心の病 不安障害
5	心の病 まとめと確認テスト・解説
6	心理検査 アセスメントとは何か
7	心理検査 投影法・描画法
8	心理検査 作業検査法・テストバッテリー
9	心理療法 コラージュ療法を理解する演習
10	心理療法 心理療法とは何か
11	心理療法 精神分析
12	心理療法 認知行動療法
13	心理療法 クライアント中心療法
14	期末試験
15	返却と解説

評価

小テスト（15点×3回=45点）と期末試験（55点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉原一昭監修 「はじめて学ぶ人の臨床心理学」 中央法規

科目名	発達臨床心理学		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

子どもの発達を胎生期、新生児期、乳児期、幼児期前半、幼児期後半、児童期、青年期にわけてとらえる。それぞれの時期の発達の特徴と子どもをとりまく環境について説明する。そしてどのような条件が整わないと問題が発生するのか、問題行動に対してどのような心理療法が行われているのか、地域の自治体が行っている乳幼児健康診査と発達に問題を持つ子どもへの援助などについて解説していく。

内容

1	1.胎生期の発達
2	2.胎生期の発達の障害・妊娠中の母子保健
3	3.新生児期の発達
4	4.新生時期の発達の障害。出生前後の母子保健
5	5.乳児期の発達
6	6.乳児期の発達の障害・乳児期の健康診査
7	7.幼児期前半の発達
8	8.幼児期前半の発達の障害・幼児期前半の健康診査
9	9.幼児期後半の発達
10	10.幼児期後半の発達の障害・幼児期後半の健康診査
11	11.児童期の発達
12	12.児童期の発達の障害・児童期の発達に関する相談
13	13.青年期の発達
14	14.青年期の発達の障害・青年期の発達に関する相談
15	15.まとめ

評価

ペーパーテスト70点、平常点30点で評価を行い、合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中島誠編 『増補発達臨床心理学』 ミネルヴァ書房

科目名	精神保健概論		
担当教員名	市村 彰英		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 認定心理士 (心理学科)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の学習目標は、人との関係性の中でのパーソナリティの発達についての知識を習得し、人間の理解に活用することにある。

現代人はストレスの多い環境のなかで生活している。人はどのようにストレスに対処、適応して心身の健康を保っているのだろうか。

自我の働きと防衛機制について学び、自我が社会化していくプロセスの中で自己概念がどのように形成されていくかについて学習する。

さらに、人と家族のライフステージにおける成長発達について学習するとともに、発達課題と精神の健康問題を臨床的視点からとらえ、理解を深める。

内容

1. パーソナリティの成長発達
2. ストレスと適応
3. ライフステージにおける個人と家族の発達課題
4. 臨床場面への応用

評価

出席40点及びレポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は特に指定せず。

授業時にプリントを配布する。

科目名	幼児期の心理臨床		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1歳から1歳半ころ、歩行が可能になり、ことばが出始める。この時期から就学期までの間を幼児期と呼ぶ。

養育者から、身体的精神的に分離が開始され、自我が発達する。そして近隣の社会や幼稚園、保育園などでの社会生活を始めるのがこの時期である。

この時期に、子どもたちはどのような問題をもつのであろうか。養育者のしつけ観の背景となる家族、仲間、文化にも考慮しながら、具体例を出し、解りやすく解説していく。

次に育児の国際比較をする中で、今後の育児のありかたを模索してみる。

内容

1	1. 身辺自立のしつけ
2	2. トイレトレーニング
3	3. 離乳
4	4. 食事のしつけ
5	5. 睡眠
6	6. ことば
7	7. 自我のめばえ
8	8. 自我育て
9	9. 好き嫌い
10	10. 退行と甘え
11	11. 母と子どもの環境・家族・仲間・文化・職業
12	12. フランスの育児
13	13. 中国の育児
14	14. アメリカの育児
15	15. まとめ

評価

レジュメの発表30点、期末のレポート50点、平常点20点で評価する。

合計で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】柴崎正行・安齋智子 『歴史からみる日本の子育て』 フレーベル館

【参考図書】内田伸子・岡村佳子 『乳幼児を育てる』 岩波書店

恒吉僚子・S. ブーコック 『育児の国際比較』 日本放送出版協会

科目名	児童期の心理臨床		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童期における精神面の発達上の問題(問題行動や不適応、精神的疾患など)について、その種類と特徴、原因、教育・治療的支援に対する理解を深めることを目的とする。中でも、不登校、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、いじめ問題について理解を深める。

内容

1. 児童期における問題行動と精神的疾患の種類、行動問題の規定要因
2. 行動問題の指導と治療における方法原則(その1)
3. 行動問題の指導と治療における方法原則(その2)
4. 注意欠陥・多動性問題(その1)~その意義・原因と特徴
5. 注意欠陥・多動性問題(その2)~診断法、指導法(その1)
6. 注意欠陥・多動性問題(その3)~指導法(その2)、治療法
7. いじめ問題(その1)~いじめの定義、いじめの動機・規定要因
8. いじめ問題(その2)~今日のいじめの特質、いじめの指導・対策(早期発見の方法)
9. いじめ問題(その3)~いじめの指導・対策(指導体制、個別的指導法)
10. いじめ問題(その4)~いじめの指導・対策(クラス全体への指導法)
11. 不登校(その1)~発生メカニズム・規定要因、不登校の前兆、不登校の経過
12. 不登校(その2)~予防対策、治療的対応(母親カウンセリング)
13. 不登校(その3)~治療的対応(本人への対応~1)
14. 不登校(その4)~治療的対応(本人への対応~2、保健室の位置・役割、保健室登校)
15. 試験

授業は、毎回プリントを配布して講義形式で行う。毎回、授業中に、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねて何回か質問を発するが、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

平常点と受講態度(20点)、試験(80点)の計100点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】江川? 成著 『多動・情緒不安定』 黎明書房 493.937/E

江川? 成著 『いじめから学ぶ 望ましい人間関係の育成』 大日本図書 371.45/E

【参考図書】高野清純・岩井寛編 『講座 教育臨床2 児童期』

江川? 成編著 『教育相談 その理論と方法』 学芸図書

高階玲治編集 『登校拒否指導マニュアル』 教育開発研究所

科目名	青年期の心理臨床		
担当教員名	鶴木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

昨今、青年期の心の荒れを象徴する事件が後を絶たない。そうしたニュースを耳にするたびに、加害者となった彼・彼女(たち)に何があったのか、また社会の一員として、私たちには何かできなかったのか、これから何をすべきだろうと考えさせられる。こうしたショッキングな凶悪事件にとどまらず、いじめ、不登校、ひきこもり、薬物依存などの青少年の問題も深刻さを増している。

この授業では、こうした青少年の問題を、発達のなつまずきという視点から捉える。そして、具体的な事例をもとにしながら、それぞれのテーマとなる問題の背景や現状を把握し、社会、地域、学校、家庭に求められる対応のあり方、予防法などを取り上げる。

内容

1	青年期の発達理論 ~自分のこれまでを振り返る~
2	青年期の発達理論 ~友人から見た自分とは~
3	「キレル」とは
4	「キレル」への対応
5	摂食障害とは
6	摂食障害への対応
7	ひきこもりとは
8	ひきこもりへの対応
9	自殺の現状
10	自殺予防・対策
11	依存症とは
12	依存症への対応
13	パーソナリティ障害
14	期末試験
15	解説

評価

レポート(20点)と期末試験(80点)により評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は特に定めない。推薦書などは適宜授業中に紹介する。

科目名	中高年期の心理臨床		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

世界中で起きているさまざまな現実のひずみに関し、人は、自らの心の平穏を保つために「あえて見ないようにする」ことがある。また、仮に自分の目に入っても、自分の耳に聴こえてきても、「他者がそのような状況にあるのは分かったけれど、自分は体験したことがないので、リアルに感じられないから」と理由をつけて、気かけない・働きかけない・自分に出来ることをしないとといったことをすることがある。本科目は、以上のような現代日本人が陥りがちな思考を前提に、「体験してないから分からない」という論理構成の中にいる自分に気づき、その上で、世界中の中高年の現実に対し、専門家として、市民として、貢献し得る知識と技術とは何かを考え、それを習得することを目的とする。

なお、本科目の具体的な学習は、さまざまな「中高年に関連した社会問題」を題材を提供し、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。学習は、グループワークと演習の形式により「想像する・想いをはせる・現実感を持つ」訓練を行った後、基礎知識・専門知識を講義形式により学習する方法により行う。

なお、現実感を持って学びを深める方策として、1) ゲストスピーカーによる体験談の語りを聴くことと、2) ハンセン病療養所へのスタディツアーで問題を五感を使って味わうことの、2つの方法を含め、題材提供を行う。

内容

学習題材としての「社会問題」には、1) 世界中の女性への差別や搾取、2) 中高年期の性同一性障害、3) 中高年期のセクシャリティと児童買春、4) 中年期のパートナーシップの意味、5) 世界中で起きている戦争や内戦と中高年期の保守性などを取り上げる。また、本科目の特徴としての「現実を実感する」題材提供の一環として、1) 中年期女性ゲストスピーカーの方のお話を聴くことと、2) ハンセン病療養所へのスタディツアーを、講義に含んでいます。

第1に、『中年期に難病を発症し今も病氣と闘いながら生きている中年期の女性』のお話を聴くことに関しては、以下の内容を予定しています。

(1-1) 概要：「全身性エリトマトーデス」という難病を思いながら、家族の中での自己の役割だけでなく、自助グループへの参加を通し、中年期を充実して生きていらっしゃる女性の方に来学いただき、「女性が中高年期を生きること」というテーマで、お話を聴かせていただきます。

(1-2) 学習の流れ：難病を思いながらも懸命に中年期を生きる女性の方が書いた文章を読み、その上で、自らが生きるということにじっくり向き合い、思考を深めます。実際にその女性の方に来学いただいた際には、皆さんへ自らの体験をじっくりお話いただきます。同時に、皆さんには、その方のお話をうかがった感想を直接話し、想いの交換をしていただきます。

第2に、『ハンセン病療養所「多磨全生園」へスタディツアーにに関しては、以下の内容を予定しています。

(2-1) 概要：「多磨全生園」に実際に赴き、高齢期にあるハンセン病回復者の方々に直接お会いし、お話を聴かせていただきます。併せて、「ハンセン病資料館」も見学してきます。

(2-2) 学習の流れ：事前学習として、ハンセン病回復者の方が自らの体験を記した「優性思想と断種の現実」に関連した文献を読み、またDVDで映像を観て、社会的に「産む側の性」としての役割を押しつけられがちな「身体的に女性である自分」について、感想をまとめていただきます。その上で、実際に多磨全生園に赴き、題材で学習した文章の著者の方からお話をうかがいながら、学習を深めます。また、療養所内を各自のペースでゆっくり歩き、資料館を見学し、その上で、更に別のハンセン病回復者の方に直接お会いしお話を聴かせていただきながら、学習を深めます。

評価

成績は、合計100点満点を、『出席』が28点、『平常点(グループ学習への取り組み状況や毎回の小レポート)』が42点、『期末レポート』が30点の構成にて配点し、それを基準に評価する。出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。

平常点とは、講義中の『グループワークへの取り組み姿勢』と、題材として提供した内容に関する『真摯な向き合いの態度』を表現した結果としての『小レポート』により評価する。レポートとは、講義最終回にその場で作成・提出を求める小論文を指す。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

使用しない。

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	田畑 光司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

臨床心理学、発達心理学、学習心理学の立場から、障害のある人の知能、言語、認知、情緒、社会性、行動などの特性を理解することを目的とする。障害は、その人と家族にとっては、生涯にわたり影響をおよぼすものであるから、ライフサイクルの視点から見てゆく。

障害の定義・原因・診断法(早期)を学習した上で、さまざまな障害におけるそれぞれの心理学的特性を学習する。さらに障害のある子どもや大人に心理検査を実施する場合の基本について学習する。また障害に起因するさまざまな問題行動のメカニズムや対応についても学ぶ。発達障害にとどまらず、精神障害や難病、中途障害など広汎に取り上げてゆく予定である。臨床例の紹介や映像資料の提供もしたい。

内容

1	はじめに 障害児・者の心理学とは 障害の定義
2	視覚障害の心理と特性
3	聴覚障害の心理と特性
4	知的障害の心理と特性
5	運動障害の心理と特性
6	病弱・難病の心理と特性
7	言語障害の心理と特性
8	精神障害の心理と特性
9	重複障害の心理と特性
10	中途障害の心理と特性
11	知能検査と障害児・者
12	発達検査と障害児・者
13	性格検査と障害児・者
14	まとめ
15	テスト

評価

授業への出席状況を15点、学期末の試験を85点として60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。必要に応じて参考図書を紹介する。

科目名	障害者の発達支援		
担当教員名	田畑 光司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

障害のある人たちが、自らの能力を最大限に発揮し、地域社会において自立と社会参加を実現するための具体的な支援方法を学ぶことを目的とする。そのためには「環境」との相互作用によって障害を捉えていく視点が必要であり、障害のある人を取りまく「環境」整備の具体例を学ぶ。「障害」は発達障害に限定しない。精神障害や難病・中途障害などについてもふれる予定である。講義だけではなく、映像による紹介も行う。

内容

1	1. はじめに 障害の考え方
2	2. 教育における発達支援 「個別支援計画」
3	3. 医療・福祉における発達支援
4	4. 発達の課題と支援方法
5	5. 行動問題の理解と支援方法
6	6. 言語・コミュニケーションにおける課題と支援方法
7	7. 運動発達における課題と支援方法
8	8. 思春期・高齢期の課題と支援方法
9	9. 社会性における課題と支援方法
10	10. 余暇活動の課題と支援方法
11	11. 中途障害の課題と支援方法
12	12. 地域社会の課題と支援方法
13	13. 家族の課題と支援方法
14	14. まとめ
15	15. テスト

評価

授業への出席を15点、学期末の試験を85点として60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。必要に応じて参考図書を紹介する。

科目名	カウニング		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

カウニングの実務に際して必要な基本的事項について、きちんと理解を図るとともに、来談者理解や傾聴の技術について紙上エクササイズによって身につけていくことを目的とする。

なお、この科目では、一年次に履修した「心理学概論」「発達心理学概論」「臨床心理学概論」「カウニング入門」等を背景にして、それらとの関連性をもたせて授業を行う。

内容

1. カウニングの方法原則（その1）
2. カウニングの方法原則（その2）
3. カウニングのすすめ方
4. ラポールと共感的理解の図り方（その1）
5. ラポールと共感的理解の図り方（その2）
6. 紙上エクササイズ（その1）～ラポールづくりと共感的理解について
7. 来談者理解の深化の方法（その1）
8. 来談者理解の深化の方法（その2）
9. 来談者理解の深化の方法（その3）
10. 紙上エクササイズ（その2）～問題の原因の分析、深層心理について
11. 働きかけの技術（その1）
12. 働きかけの技術（その2）
13. 働きかけの技術（その3）
14. 紙上エクササイズ（その3）～助言・情報提供・説得について
15. 試験

授業は、毎回プリントを配布して講義形式で行う。なお、必要に応じて質問を發して、挙手の形で答えてもらうという質問応答の方法を取り入れて行う。また、毎回、授業中に、その時間で学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねて質問を發するが、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

平常点（20点）と試験（80点）の計100点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】江川？成編著 『カウニング入門』 北樹出版

国分康孝著 『カウニングの技法』 誠信書房

村山正治・山本和郎[編] 『スクール カウンセラー』 ミネルヴァ書房

【参考図書】江川？成編著 『教育相談 その理論と方法』 学芸図書

江川？成著 『心理療法・カウニングにおける認知方略 その理論と実際』 ブレーン出版

科目名	教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 認定心理士 (心理学科)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい：近年、学校現場で生じているさまざまな現象や発達と教育に関わる心理学的課題を抱える児童生徒に対して、教育相談に必要な基本的な知見を獲得する。また、実際どのように活動していくのかについて学ぶ。

目標：教育相談に携わるものとして具体的・実践的な教育相談手法を体得する。

概要：教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

内容

講義の方針：学校現場において、児童生徒を指導するために身につけておくべき基礎知識を解説する。加えて、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための心理学的知識やアセスメント方法を学ぶ。

講義の進め方：講義を主とする。なお、授業中もしくは授業後に、トピックに関する意見や感想などの提出を求めることもある。

内容：主に以下のトピックスを15回に分けて取り扱う予定である。

- 1) 今日の教育環境における学習者が抱える課題
- 2) 「教育相談」学習の意義
- 3) 「教育相談」の概念
- 4) 「教育相談」の心理学的基礎
- 5) 「教育相談」のすすめ方
- 6) 「教育相談」における心理アセスメント
- 7) 「教育相談」の技法
- 8) 「教育相談」の技法
- 9) 主な行動問題の理解と対応のポイント
- 10) 学校教育の課題

評価

【評価の方法】出席、講義への参加度、試験を総合的に評価する。配分は、出席：30点、講義レポート（講義中に数回課す予定）：20点、試験：50点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】一丸藤太郎・菅野信夫著 『学校教育相談』 ミネルヴァ書房 2002

- 【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008
有村久春著 『キーワードで学ぶ 特別活動・生徒指導・教育相談』 金子書房 2009
菅野純著 『教師のための学校カウンセリングゼミナール』 実務教育出版 1995

科目名	心理療法		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

心理臨床にたずさわる人々が基礎知識としてもっていたほうが良いと思われる理論がいくつかある。それらについておおまかに理解してもらうことをねらいとしている。まず心理療法の歴史をひもとき、どのようにして現在のような心理療法が誕生してきたかを探る。次に心理療法の主なものについてわかりやすく紹介してみる。

内容

1. 心理療法の歴史
2. ロジャース派
3. 精神分析 フロイトとその後継者たち
4. ユング派
5. 行動療法
6. 家族療法学派
7. 遊戯療法
8. 箱庭療法
9. イメージ療法
10. 認知療法
11. 認知行動療法
12. 催眠療法、自律訓練法
13. アドラー心理学
14. ゲシュタルト療法
15. 交流分析

評価

ペーパーテスト70点、平常点30点で評価する。合計で60点を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】乾吉佑他編 『心理療法ハンドブック』 創元社 2005

科目名	発達臨床フィールドワーク		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

発達臨床心理学、臨床心理学は社会のさまざまな場でどう役立っているのだろうか。心理学や関連領域を学んで現場で活躍されている方々を招き、さまざまな実践経験や現在に至った道を語っていただく。知識として学ぶ発達心理学、臨床心理学や関連領域が現場でどう生きているか、現場でどんな難しさがあるのか等、発達臨床に対する理解を深めるとともに、学生が自分の将来の道を考える一助とする。

内容

発達臨床に関わるいろいろな現場の方に、職場の仕事、どんな喜びや苦労があるか、発達臨床心理学はどのように役立っているか等について、オムニバスで講義をしていただく。以下は予定。

1. イントロダクション
2. 助産師：命の誕生の現場。
- 3-4. 乳幼児期・児童期の相談
5. 地域保健センターの健診、巡回相談。
6. 虐待防止活動の取り組み。
7. 地域での子育て支援
8. 知的障害児・者の地域サポート
9. スクールカウンセリング(小学校)。
10. スクールカウンセリング(中学校、高校)。
11. 病院での発達臨床：思春期・青年期
- 12-13. 病院での発達臨床：成人期、老年期の臨床
14. 地域での成人期臨床
15. 討論とまとめ

評価

講義各回にレポート(60点)、期末レポート(30点)、授業時の討論(10点)。 合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】麻生武・浜田寿美男編「よくわかる臨床発達心理学」ミネルヴァ書房 2005

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読を通じて、心理学の諸概念や理論を学ぶとともに、心理学の基本的な見方・考え方を身につけることを目的とする。

この科目は4人の教員が一分野ずつ担当するので、各分野の具体的な学習の目標・ねらいについては、授業開始後に各教員から説明がある。

受講者には、一年次に学んだことを、より具体的なテーマに沿って考え生かしていくことが望まれる。また、この科目は今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

内容

学生はあらかじめ決められた4グループに分かれる。各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて指導を行う。教員によって授業の進め方は異なるが、基本的には、各受講者はテキストや文献をあらかじめ読んで授業に臨む。発表者が自己の分担箇所の要旨を作成し報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

第1週目は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2週目からは、グループに分かれ、一人の教員が7回ずつ、演習形式で授業を行う。

扱うテーマは以下の通りである。

（担当者 江川）いじめ問題を取り上げ、いじめの定義、原因・動機、問題の解決法について調べる。

（担当者 岡村）性差について、身体的側面、認知的側面、情意的側面から調べる。

（担当者 星）好奇心、やる気等動機付けに関する文献を読み、また心理学の実験、調査の方法を学ぶ。

（担当者 綿井）最近特に関心の高い認知心理学の領域から、いくらかのテーマを選んで調べる。

評価

平常点(30点)、発表と要旨等のレポート(50点)、質疑応答・討論への積極的な参加など学習態度(20点)。合格点60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考書】各担当教員から指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の主要分野(発達・臨床・教育・人格・社会等)の専門書の講読を通じて、心理学の諸概念や理論を学ぶとともに、心理学の基本的な見方・考え方を身につけることを目的とする。

この科目は4人の教員が一分野ずつ担当するので、各分野の具体的な学習の目標・ねらいについては、授業開始後に各教員から説明がある。

受講者には、一年次に学んだことを、より具体的なテーマに沿って考え生かしていくことが望まれる。また、この科目は今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

内容

学生はあらかじめ決められた4グループに分かれる。各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて指導を行う。教員によって授業の進め方は異なるが、基本的には、各受講者はテキストや文献をあらかじめ読んで授業に臨む。発表者が自己の分担箇所の要旨を作成し報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

第1週目は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2週目からは、グループに分かれ、一人の教員が7回ずつ、演習形式で授業を行う。

(担当者 江川) いじめ問題を取り上げ、いじめの定義、原因・動機、問題の解決法について調べる。

(担当者 岡村) 性差について、身体的側面、認知的側面、情意的側面から調べる。

(担当者 星) 好奇心、やる気等動機付けに関する文献を読み、また心理学の実験、調査の方法を学ぶ。

(担当者 綿井) 最近特に関心の高い認知心理学の領域から、いくらかのテーマを選んで調べる。

評価

平常点(30点)、発表と要旨等のレポート(50点)、質疑応答・討論への積極的な参加など学習態度(20点)。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考書】各担当教員から指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の主要分野(発達・臨床・教育・人格・社会等)の専門書の講読を通じて、心理学の諸概念や理論を学ぶとともに、心理学の基本的な見方・考え方を身につけることを目的とする。

この科目は4人の教員が一分野ずつ担当するので、各分野の具体的な学習の目標・ねらいについては、授業開始後に各教員から説明がある。

受講者には、一年次に学んだことを、より具体的なテーマに沿って考え生かしていくことが望まれる。また、この科目は今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

内容

学生はあらかじめ決められた4グループに分かれる。各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて指導を行う。教員によって授業の進め方は異なるが、基本的には、各受講者はテキストや文献をあらかじめ読んで授業に臨む。発表者が自己の分担箇所の要旨を作成し報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

第1週目は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2週目からは、グループに分かれ、一人の教員が7回ずつ、演習形式で授業を行う。

(担当者 江川) いじめ問題を取り上げ、いじめの定義、原因・動機、問題の解決法について調べる。

(担当者 岡村) 性差について、身体的側面、認知的側面、情意的側面から調べる。

(担当者 星) 好奇心、やる気等動機付けに関する文献を読み、また心理学の実験、調査の方法を学ぶ。

(担当者 綿井) 最近特に関心の高い認知心理学の領域から、いくらかのテーマを選んで調べる。

評価

平常点(30点)、発表と要旨等のレポート(50点)、質疑応答・討論への積極的な参加など学習態度(20点)。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考書】各担当教員から指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読を通じて、心理学の諸概念や理論を学ぶとともに、心理学の基本的な見方・考え方を身につけることを目的とする。

この科目は4人の教員が一分野ずつ担当するので、各分野の具体的な学習の目標・ねらいについては、授業開始後に各教員から説明がある。

受講者には、一年次に学んだことを、より具体的なテーマに沿って考え生かしていくことが望まれる。また、この科目は今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

内容

学生はあらかじめ決められた4グループに分かれる。各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて指導を行う。教員によって授業の進め方は異なるが、基本的には、各受講者はテキストや文献をあらかじめ読んで授業に臨む。発表者が自己の分担箇所の要旨を作成し報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

第1週目は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2週目からは、グループに分かれ、一人の教員が7回ずつ、演習形式で授業を行う。

（担当者 江川）いじめ問題を取り上げ、いじめの定義、原因・動機、問題の解決法について調べる。

（担当者 岡村）性差について、身体的側面、認知的側面、情意的側面から調べる。

（担当者 星）好奇心、やる気等動機付けに関する文献を読み、また心理学の実験、調査の方法を学ぶ。

（担当者 綿井）最近特に関心の高い認知心理学の領域から、いくらかのテーマを選んで調べる。

評価

平常点(30点)、発表と要旨等のレポート(50点)、質疑応答・討論への積極的な参加など学習態度(20点)。合格点60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考書】各担当教員から指示と助言がある。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	鶴木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

内容

1. 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、

心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

2. 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

内容

1. 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

2. 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	00クラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

内容

1. 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、

心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

2. 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

内容

1. 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、

心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

2. 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

内容

1. 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

2. 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジюмеに基づく口頭発表、研究実習)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

内容

1. 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、

心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

2. 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

内容

1. 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、

心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

2. 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

内容

1. 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

2. 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

内容

1. 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

2. 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

内容

1. 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、

心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

2. 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	発達心理学外書講読		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

英文で発達心理学および発達臨床心理学の文献を読む。人の発達はその人の育つ社会や文化と切り離せない。世界中で研究されている発達心理学は国によっていろいろな発達の様相を示しているが、日本語で読めるのはそのごく一部である。英語で文献を読むことによって、世界の文化のなかの多様な人の発達の姿を見ることができる。大学院進学者の受験対策も兼ねているので、大学院進学を考えている学生に強く受講を勧める。

内容

15回の授業をとおして、発達心理学と臨床心理学に関係した文献を読む。長文を短い時間にたくさん読めるように練習する。

* 発達心理学の歴史上重要でよく知られている研究についてやさしく書かれた文を読む。

* 臨床心理学のなかで受講学生の興味に従って文献を選び、読む。

文献は担当者が用意する。

評価

平常点(50点) 授業中の小テスト(50点)。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	心理学方法論		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

まず科学的研究の基本的特質に対する理解をしっかりと図り、心理学の研究対象である意識と行動(つまり広義の行動)について方法論的な観点からその基本的特質をおさえた上で、心理学の主要な研究方法(観察法、実験法、質問紙調査法)について理解をきちんと図ることを目的とする。

内容

1. 科学的研究の基本的特質(研究の目的~法則定立・説明・予測・制御、非実証的過程~仮説設定・仮説の検証と法則定立・理論構築)
2. 心理学における実証的過程、意識と行動の方法論的特質
3. 心理学における研究のタイプ(仮説検証的研究、道具的・法則的研究、記述的研究、探索的研究、解釈的研究と理論的研究)、方法と方法論について
4. 仮説について(その1)~仮説の意義と種類、仮説の類似語、仮説の機能
5. 仮説について(その2)~仮説形成の方略、仮説の表現形式
6. 観察法について(その1)~観察法の意義と種類、自然的観察法(その目的)
7. 観察法について(その2)~自然的観察法(その諸方法)
8. 観察法について(その3)~自然的観察法(妥当性と信頼性、観察者バイアスの問題とその解法)
9. 実験法について(その1)~実験の意義とタイプ
10. 実験法について(その2)~実験における変数の決定、実験計画法
11. 実験法について(その3)~実証的データの整理と考察の仕方について
12. 質問紙調査法について(その1)~質問紙法の意義と特質、質問紙調査の諸形式
13. 質問紙調査法について(その2)~質問紙の作成手順
14. 質問紙調査法について(その3)~データの整理・解析法
15. 試験

授業は、教科書を使って講義形式で行うが、授業中に随所で質問を発して、それに対して挙手によって答えるという質問応答の方法を取り入れて行う。また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習をかねて質問を発するが、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

平常点と受講態度(20点)、試験(80点)の計100点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】江川?成著 『要述 心理学方法論』(受講者は開講前に必ず取り揃えること)

【推薦書】『心理学研究法』(全17巻)東京大学出版会 140.708/S/1-17

【参考図書】江川?成著 『経験科学における研究方略ガイドブック 論理性と創造性のブラッシュアップ』 ナカニシヤ

大山 正・岩脇三良・宮埜壽夫共著 『心理学研究法』 サイエンス社

科目名	心理学方法論		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

まず科学的研究の基本的特質に対する理解をきちんと図り、心理学の研究対象である意識と行動（つまり広義の行動）について方法論的な観点からその基本的特質をおさえた上で、心理学の主要な研究方法（観察法、実験法、質問紙調査法）について理解をしっかりと図ることを目的とする。

内容

1. 科学的研究の基本的特質（研究の目的～法則定立・説明・予測・制御、非実証的過程～仮説設定・ 仮説の検証と法則定立・理論構築）
2. 心理学における実証的過程、意識と行動の方法論的特質
3. 心理学における研究のタイプ（仮説検証的研究、道具的・法則的研究、記述的研究、探索的研究、 解釈的研究と理論的研究）、方法と方法論について
4. 仮説について（その1）～仮説の意義と種類、仮説の類似語、仮説の機能
5. 仮説について（その2）～仮説形成の方略、仮説の表現形式
6. 観察法について（その1）～観察法の意義と種類、自然的観察法（その目的）
7. 観察法について（その2）～自然的観察法（その諸方法）
8. 観察法について（その3）～自然的観察法（妥当性と信頼性、観察者バイアスの問題とその解法）
9. 実験法について（その1）～実験の意義とタイプ
10. 実験法について（その2）～実験における変数の決定、実験計画法
11. 実験法について（その3）～実証的データの整理と考察の仕方について
12. 質問紙調査法について（その1）～質問紙法の意義と特質、質問紙調査の諸形式
13. 質問紙調査法について（その2）～質問紙の作成手順
14. 質問紙調査法について（その3）～データの整理・解析法
15. 試験

授業は、教科書を使って講義形式で行うが、授業中に随所で質問を発し、それに対して挙手によって答えてもらうという質問応答の方法を取り入れて行う。また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習をかねて質問を発するが、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

平常点と受講態度（20点）、試験（80点）の計100点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川? 成著 『要述 心理学方法論』（受講者は開講前に必ず取り揃えること）

【推薦書】『心理学研究法』（全17巻）東京大学出版会 140.708/S/1-17

【参考図書】江川? 成著 『経験科学における研究方略ガイドブック 論理性と創造性のブラッシュアップ』。ナカニシヤ

大山 正・岩脇三良・宮埜壽夫共著 『心理学研究法』 サイエンス社

科目名	心理統計法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この授業では、心理学における実験・調査・観察研究に必要不可欠な統計法について学習する。心理学の実証研究では、実験や調査などを通して得られたデータの統計的分析が必須である。そこで、人間の心や行動を測定しデータを得ること、得られたデータを集計すること、集計した結果をもとに解析を行うことについての理解を深める。こうした学習活動を通して、データから情報を取り出す眼力を養い、データを客観的に解析ながら説得力のある主観的解釈を導く方法を獲得する。

最初に、記述統計学と呼ばれるデータ集計の基礎を学習する。細かな計算式の解説ではなく、具体的なデータを実際に集計することで、統計用語に親しみ、計算手順を経験し、記述統計の考え方を理解することを重視する。次に、推測統計を学習する。実験計画に基づいて測定されたデータに対する統計的仮説検定の手順について、具体的なデータの分析を通して習得する。「仮説」をどのように立てるのか、実験・調査の計画の立て方についても、合わせて理解することを目指す。

ほとんどの受講生が統計法について初学であることを考慮して、本科目における統計計算には、コンピュータアプリケーションではなく電卓を用いる。データを丹念に眺めること、計算の意味を理解し、計算手順を厳守する態度を養って欲しい。

内容

1. 心理統計法の意義、心理データの測定と尺度
2. 度数分布、統計図表（質的変数の図示法、量的変数の図示法）
3. 代表値（平均値、中央値、最頻値）、散布度（分散と標準偏差、範囲、四分領域）
4. 正規分布と相対的位置
5. 2変数間の相関、線形回帰
6. 母集団と標本、統計的仮説の検定
7. 2つの母集団の比較（分散の等質性、平均の差の検定）
8. クロス集計、2乗検定と連関係数
9. 3つ以上の平均の比較（分散分析）

評価

学期終盤の数回にわたって行う筆記試験（統計計算と検定が中心）を100点満点により評価を行う。試験では、統計手法の実践力が備わったのか、集計結果や検定結果を分析の目的に即して読み解く力が備わったのかを測定する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 吉田寿夫 『ほんとうにわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房

【電 卓】 計算とメモリ機能（MRとMCが別ボタン）を備えた大きめのサイズの電卓を用意すること

科目名	データ解析法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

統計解析ソフトSPSSを使った実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方、解釈の仕方を身につけ、同時にSPSSの使用法もマスターすることを目標とする。また統計解析専門ソフトの特性をいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。履修にあたっては統計の基礎知識が必要とされるので、心理統計法、心理学情報処理法などの科目を単位取得済みであることが必要である。またPC実習室を使用するため、受講者数の上限を50名とする。希望者多数の場合は初回の授業で選考を行うので必ず出席すること。

内容

SPSSを使って以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータ(内容未定)の集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約(平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計(単純集計、クロス集計)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定: 質的データの検定(2 検定)
- (6) 2つの平均値の差の検定(t 検定)
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析(因子分析)

評価

期末レポート50点+中間テスト30点+授業内の課題10点+出席点10点により評価を行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配付する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の研究において、実験や調査で収集されたデータに対する統計解析は必須といってもよい。また実際の研究ではデータ解析にはコンピュータアプリケーションが使われることがほとんどであり、その使用も避けては通れないものとなっている。全ての受講生は既に必修科目「心理統計法」を履修し統計解析の基礎を学習してきたはずである。この実習では、「心理統計法」で学んだ種々の統計的方法についてパソコンを使って実習することで、「心理統計法」で学んだ知識の定着、より深い理解を促すとともに、さらに一歩進めて、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析の技術を身につけることを目標とする。分析ツールとしては代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。Ms-Excelは、表やグラフの作成からデータの集計・分析にまで対応できる、多様な機能を備えたソフトで、心理学の研究場面でも活用されている。

内容

1. Ms-Excelの基本操作(1) 表とグラフの作成
2. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示
3. Ms-Excelの基本操作(2) 数値の計算と関数
4. 基本統計量の算出：平均値と標準偏差
5. 2つの平均値の差の検定(1)：対応のないt検定
6. 2つの平均値の差の検定(2)：対応のあるt検定
7. 2つの変数の関係：相関係数
8. Ms-Excelの基本操作(3) ピボットテーブル
9. 度数分布と単純集計
10. クロス集計と 2検定
11. 3つ以上の平均値の差の検定(一元配置分散分析)
12. 尺度の水準と解析方法の選択：質的データと量的データ
13. 調査データの集計・分析

評価

期末レポート70点+授業内での課題15点+出席点15点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので出席は重要である。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

心理学の研究において、実験や調査で収集されたデータに対する統計解析は必須といってもよい。また実際の研究ではデータ解析にはコンピュータアプリケーションが使われることがほとんどであり、その使用も避けては通れないものとなっている。全ての受講生は既に必修科目「心理統計法」を履修し統計解析の基礎を学習してきたはずである。この実習では、「心理統計法」で学んだ種々の統計的方法についてパソコンを使って実習することで、「心理統計法」で学んだ知識の定着、より深い理解を促すとともに、さらに一歩進めて、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析の技術を身につけることを目標とする。分析ツールとしては代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。Ms-Excelは、表やグラフの作成からデータの集計・分析にまで対応できる、多様な機能を備えたソフトで、心理学の研究場面でも活用されている。

内容

1. Ms-Excelの基本操作(1) 表とグラフの作成
2. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示
3. Ms-Excelの基本操作(2) 数値の計算と関数
4. 基本統計量の算出：平均値と標準偏差
5. 2つの平均値の差の検定(1)：対応のないt検定
6. 2つの平均値の差の検定(2)：対応のあるt検定
7. 2つの変数の関係：相関係数
8. Ms-Excelの基本操作(3) ピボットテーブル
9. 度数分布と単純集計
10. クロス集計と 2検定
11. 3つ以上の平均値の差の検定（一元配置分散分析）
12. 尺度の水準と解析方法の選択：質的データと量的データ
13. 調査データの集計・分析

評価

期末レポート70点+授業内での課題15点+出席点15点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので出席は重要である。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の基礎となる実証的な研究方法を理解し、その具体的な手法を習得するとともに、心理学の研究報告の形式を身につけることを目的とする。

授業では、受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・被験者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。そのために、データの集計・解析やレポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に実行することが求められる。

学習負担が小さいとはいえないが、心理学研究の基礎を理解し、実感できるとともに、学習の成果が大きい授業であるにとらえ、積極的に取り組んでほしい。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の試行と結果の整理を原則として2週連続して行う。

- (1)長さの錯視
- (2)自由再生における系列位置効果
- (3)囚人のジレンマ
- (4)観察法
- (5)眼球運動

3. レポートの講評

5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評の3回の授業が行われる。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各課題についての実験レポート(各20点×5=100点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の基礎となる実証的な研究方法を理解し、その具体的な手法を習得するとともに、心理学の研究報告の形式を身につけることを目的とする。

授業では、受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・被験者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。そのために、データの集計・解析やレポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に実行することが求められる。

学習負担が小さいとはいえないが、心理学研究の基礎を理解し、実感できるとともに、学習の成果が大きい授業であるにとらえ、積極的に取り組んでほしい。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の試行と結果の整理を原則として2週連続して行う。

- (1)長さの錯視
- (2)自由再生における系列位置効果
- (3)囚人のジレンマ
- (4)観察法
- (5)眼球運動

3. レポートの講評

5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評の3回の授業が行われる。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各課題についての実験レポート(各20点×5=100点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の基礎となる実証的な研究方法を理解し、その具体的な手法を習得するとともに、心理学の研究報告の形式を身につけることを目的とする。

授業では、受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・被験者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。そのために、データの集計・解析やレポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に実行することが求められる。

学習負担が小さいとはいえないが、心理学研究の基礎を理解し、実感できるとともに、学習の成果が大きい授業であるにとらえ、積極的に取り組んでほしい。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の試行と結果の整理を原則として2週連続して行う。

- (1)長さの錯視
- (2)自由再生における系列位置効果
- (3)囚人のジレンマ
- (4)観察法
- (5)眼球運動

3. レポートの講評

5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評の3回の授業が行われる。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各課題についての実験レポート(各20点×5=100点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の基礎となる実証的な研究方法を理解し、その具体的な手法を習得するとともに、心理学の研究報告の形式を身につけることを目的とする。

授業では、受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・被験者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。そのために、データの集計・解析やレポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に実行することが求められる。

学習負担が小さいとはいえないが、心理学研究の基礎を理解し、実感できるとともに、学習の成果が大きい授業であるにとらえ、積極的に取り組んでほしい。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の試行と結果の整理を原則として2週連続して行う。

- (1)長さの錯視
- (2)自由再生における系列位置効果
- (3)囚人のジレンマ
- (4)観察法
- (5)眼球運動

3. レポートの講評

5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評の3回の授業が行われる。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各課題についての実験レポート(各20点×5=100点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の基礎となる実証的な研究方法を理解し、その具体的な手法を習得するとともに、心理学の研究報告の形式を身につけることを目的とする。

授業では、受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・被験者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。そのために、データの集計・解析やレポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に実行することが求められる。

学習負担が小さいとはいえないが、心理学研究の基礎を理解し、実感できるとともに、学習の成果が大きい授業であるにとらえ、積極的に取り組んでほしい。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の試行と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1)長さの錯視
 - (2)自由再生における系列位置効果
 - (3)囚人のジレンマ
 - (4)観察法
 - (5)眼球運動
3. レポートの講評

5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評の3回の授業が行われる。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各課題についての実験レポート(各20点×5=100点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学実験実習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理実験に関わる全ての過程を実習する。すなわち1)仮説をたて、2)実験を計画し、3)データを取り、4)データを解析し、5)報告書にまとめ、6)口頭でも報告する。これら6つの過程を実習する。実験テーマは紙と鉛筆を使って出来る実験から、スライドだけを使ってできる実験、自作プログラムを用いた知覚・反応実験まで、多彩な器材で実行可能な実験を行う。

特に力を入れたいのは、心理学的な問題設定の能力、素データを見抜く眼力、統計手法を用いたデータの吟味、そして文章作成能力の涵養である。問題設定から始めて、データ取得、データ解析、レポート作成、発表までの過程を一通り実習し、心理実験の雰囲気味わってほしい。第一目標は卒業研究につながる問題(不思議のタネ)の発見だが、まずは人間の不思議な仕組み、心理学の面白さを実感する。

内容

予定する実験内容は以下の3つである。それぞれを5週間かけて実習する。

- 1) 紙と鉛筆を使った実験: 急速反復書字課題による書字スリップ(手続き記憶の収納方法)
~ 仮説の設定, 実験計画, Excelで作る t 検定のプログラム, レポート作成, 口頭発表
- 2) パソコンを使った実験: ストループ課題(選択的注意とその干渉[文字認識vs色認識])
~ 処理負荷の指標としての反応時間, 平均値と中央値, Excelで作る分散分析のプログラム, レポート作成
- 3) パソコンを使った実験: 40語のswヒリ語を暗記する最も効果的な方法
~ 仮説の設定, 実験計画, 分散分析の読み取り, レポート作成

より密度の濃い授業にすべく、また機材の数も勘案して受講人数の上限を設定する可能性がある。希望者多数の場合、初回授業で抽選を行うので、受講希望者は初回の授業に遅刻せずに出席すること。やる気のある学生の受講を望みます。

5週を単位として一つの実験に取り組む。レポートの添削にも時間を割く予定なので、各課題のレポート提出は必須である。

評価

これは実習なので出席はもちろん、レポート内容も評価する。毎週必ず出席し、レポートは全て期限内に提出すること。出席60%、レポート30%、口頭発表10%を評価の対象とし、総合60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】木下是雄 「レポートの組み立て方」 ちくま学芸文庫

客観的な報告書をまとめる際の基本が平易に書かれています。作文技術は社会に出ても必要になってきます。いつも手元において、分かりやすく、伝わる文章を書く技術を磨いていきましょう。

科目名	社会調査法実習		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1,2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

質問紙を使った調査法は、心理学の研究において頻りに用いられる重要な研究方法の1つである。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、それを習得することを目指す。また調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのようにして測定するかについても学習する。なお、データの分析にPC実習室を使用するため、受講者数の上限を50名とする。希望者多数の場合は初回の授業で選考を行うので必ず出席すること。

内容

調査法に関する講義と小グループに分かれての実習を並行して行う。実習は、(1)実態把握調査と(2)心理尺度を使った調査の2つを行う。いずれもグループごとにテーマを決め、調査用紙、尺度項目を作成し、授業内で実施する予定である。

- (1) 質問紙調査法の概要
- (2) 標本抽出の方法
- (3) 調査用紙の作成
- (4) 心理的変数の測定
- (5) 心理尺度の構成
- (6) 尺度項目の作成
- (7) 尺度の信頼性・妥当性の検討、項目分析のやり方
- (8) 調査実施方法、実施後の処理
- (9) データの分析
- (10) 報告書の作成

評価

レポート課題70点及び出席点30点により評価を行い、60点以上を合格とする。実習形式なので出席は重要である。特に、グループで作業を行うことが多くなるので欠席や非協力的な態度などで他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

鎌原雅彦他 1998『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

科目名	行動観察法実習		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1,2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日常の生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つである。心理学では、行動観察法は人の行動の意味、人と人の関係、発達の過程その他を知るために、多くの領域で使われる。人の行動を観察するというのは、誰でもできるようでいて、実はしっかりした訓練がないとうまくできない。この技法を学び実習する。授業や卒論にだけでなく、将来臨床や教育の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指す。なお教室の関係で人数制限もあり得る。

内容

情報処理室でDVD映像を使つての実習、および実地観察を行う。グループでの実習があるので積極的かつ互いに協力して進めてほしい。

1. 観察とは
2. 観察法の種類
3. 実習1. 画像の観察: 物の観察と人の観察を比較する。
- 4-5. 実習2. 映像を見て観察の視点を養い、客観的な観察とは何かを知る。
- 6-7. 実習3. 人の動作と話の関連の観察: 時間見本法と事象見本法
8. 実習4. 子どもの行動に表された意図を観察から読み取る。
- 9-10. 実習5. 人と人の関係の観察。
11. 実習6. 実地観察の技法。
- 12-13. 実習7. 幼稚園実習観察とその結果整理。
14. グループ発表
15. 期末レポート用行動観察

評価

各実習ごとのレポート(60%)、期末レポート(30%)、平常点(10%)。合格は100点換算で60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】中澤潤他 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

科目名	カウセリング演習		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本授業では、カウセリングや臨床心理学の基礎を学んだ受講生を対象に、実習を通してカウセリングの技法を習得することをねらいとしている。

まず、アサーションを学ぶことにより、自分の気持ちを誠実に表現することの重要性と表現スキルを学ぶ。次に、コラージュ制作により、言語ではなく、非言語的な媒体を使用して、自分のいまの気持ちと向かい合い、表現することの体験を行う。

最後に、カウセリングの各種の技法を復習したうえで、受講生同士で短時間のロールプレイを行う。自分がカウンセラー役、クライアント役の両方になってみるという体験を通して、カウセリングについてどのような問題が考えられるか、また気をつけるべき点などについて多角的に議論をする。

内容

1. ガイダンス
2. アサーション・トレーニング(1)：基礎
3. アサーション・トレーニング(2)：応用（グループワーク）
4. コラージュ制作
5. コラージュ制作の発表とグループ討議
6. カウセリング技法の復習
- 7～14. 試行カウセリングの実践と討議
15. まとめ

* 前期「カウセリング」を履修していること。

* 2人1ペアとなり、授業時間外で試行カウセリングを行うこととなる。

評価

授業中の提出物（50点）、レポートもしくは授業中の発表（50点）により、評価を行い、60点以上を合格とする。なお、実習授業のため、遅刻、欠席は厳禁である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は特に指定しない。推薦書は、授業中に適宜紹介する。

科目名	教育相談演習		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい：「教育相談」で行った基礎知識を現場で生かしていくための実践的なスキルの習得を目指す。

目標：教育相談に携わるものとして具体的・実践的な教育相談手法を体得する。

概要：不登校やいじめなどの事例や問題を抱える子どもたちへの相談場面などについて、ロールプレイングなどを通して理解する。また、子どもだけでなく保護者や教師といった子どもをとりまく人々を支えるために必要な姿勢や連携方法についても同時に学ぶ。なお、相談活動に役立つ実践的な方法として、エンカウンターグループやプレイセラピー、描画法などの臨床心理学的手法も取り入れたいと考えている。

内容

講義の方針：問題の原因を追求するだけでなく個別的实际的な取り組みが行えるように、
教育相談で重要な概念について具体的体験と併せて知ることをねらいとする。

講義の進め方：事例検討やロールプレイング、描画法など実習形式を中心にとり行う予定である。

内容：不登校やいじめ、校内暴力、非行、学級崩壊、発達障害、虐待、引きこもりなどの
事例検討や相談場面のロールプレイングを行う。

また、ボランティアなどで個人的に体験した事例についても報告し、討論する機会を設ける。

さらに、エンカウンターグループやプレイセラピー、描画法などの臨床心理学的手法を実際に
体験することで、相談活動に役立つ実践的かつ具体的な方法を習得する。

「教育相談」を履修済みの学生のみ受講可能。

本講義は、ロールプレイなど参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加への態度を求める。加えて、授業中に取り扱う各種の個人情報については、受講生といえども守秘義務を負うものであることを十分承知した上で受講することが望ましい。

受講希望者が多数の場合、受講制限を設けることがあります。

評価

【評価の方法】出席を重視する。その他講義への参加度、試験をあわせて総合的に評価する。配分は、出席：50点、実習レポート（講義中に数回課す予定）：20点、試験：30点を予定。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。

【推薦書】菅野純著 『教師のためのカウンセリングワークブック』 金子書房 2001

月間学校教育相談編集部編 『相談活動に生かせる15 の心理技法』 ほんの森出版 2004

【参考図書】授業中に適宜紹介します。

科目名	心理療法演習		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

心理臨床場面で実際におこなわれている事例について 相談のやりかたと、 相談の内容やテーマに分けて考える。 についてはまず技法の理解と実践的習熟が必要とされる。次にカウンセラー自身の自己理解や自己の探求が必要になってくる。 については現在問題とされているテーマについての多面的な理解が必要になってくる。以上の点を考慮しながら、テキストに習って実践的に学んでいく。

内容

1. 言語的援助の技法
2. 非言語的援助の技法
3. 自己理解を深める
4. 事例に学ぶ援助の実際
 - 子育て不安 主訴と問題の所在
5. 虐待 介入と受容
6. 職場への不適応 不安をうけとめることと解釈
7. 不登校 思春期の表現を理解する
8. 非行 行動の意味を理解する
9. 人格障害 共感できない事例
10. 摂食障害 拒否的態度への対応
11. 不定愁訴 聴くことの意味
12. 自閉症 相手と世界を共有する
13. 発達障害児の親面接 支持することと援助
14. 育児困難 地域との連携
15. 精神病 アセスメントと他機関への紹介

評価

実習点（50点）と期末レポート（30点）と平常点（20点）で評価する。
合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子著 『これからの心の援助』 ナカニシヤ出版 2001

科目名	心理学概論		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

心理学を学ぶ者にとっての入門科目であり、心理学のさまざまな科目を習得する際の出発点である。従って、この科目では、人間を理解する際の科学的な態度と基本的視座をしっかりと身につけることをねらっている。授業で扱う内容は、心理学の辿ってきた過去（心理学の歴史）、経験科学としての心理学の目標・対象・方法をはじめ、心理学の基礎的事項を取り上げて解説する。

内容

授業で扱う内容の要点をまとめた『要述 心理学概論』を使い（別途、関連資料を配布）、講義形式を基本とし、随所に質問応答形式をまじえて授業を行う。

1. 心理学とはなにか（目的、対象、方法、心理学の諸領域）
2. 行動のメカニズム（その1）～行動の種類、感覚支配的行動、習得的行動（その1）
3. 行動のメカニズム（その2）～習得的行動（その2）、シンボル機能、意識と行動の関係
4. 行動のメカニズム（その3）～意識の発生過程
5. 感覚・知覚（その1）～感覚・知覚の分化と統合、網膜とその機能の分化
6. 感覚・知覚（その2）～色彩知覚、視知覚の適応性
7. 感覚・知覚（その3）～形の知覚
8. 学習と記憶（その1）～学習の意義と種類、古典的条件づけ、オペラント条件づけ（その1）
9. 学習と記憶（その2）～オペラント条件づけ（その2）、潜在学習、社会的学習（その1）
10. 学習と記憶（その3）～社会的学習（その2）、技能学習、
11. 学習と記憶（その4）～記憶の過程、記憶の種類、記憶の方略
12. 動機づけと感情・情動（その1）～動機づけの意義と要件、感情の種類、食と性の動機づけ
13. 動機づけと感情・情動（その2）～欲求不満と葛藤、基本的情動（恐怖、怒り）
14. 心理学の歴史
15. 試験

毎回、授業中に、その授業で学ぶべき事項の理解を深めるべく質問を発するが、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

平常点と受講態度（20点）、試験（80点）の計100点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川?成著 『要述 心理学ノート』（開講前に必ず取り揃えること）

【推薦書】鹿取廣人/杉本敏夫〔編〕 『心理学〔第2版〕』 東京大学出版会

【参考図書】宮城音弥著 『心理学入門』 岩波新書

村田孝次著 『教養の心理学』 培風館

今田 恵著 『心理学史』 岩波書店

科目名	心理学概論		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

心理学を学ぶ者にとっての入門科目であり、心理学のさまざまな科目を習得する際の出発点である。従って、この科目では、人間を理解する際の科学的な態度と基本的視座をしっかりと身につけることをねらっている。授業で扱う内容は、心理学の辿ってきた過去（心理学の歴史）、経験科学としての心理学の目標・対象・方法をはじめ、心理学の基礎的事項を取り上げて解説する。

内容

授業で扱う内容の要点をまとめた『要述 心理学概論』を使い（別途、関連資料を配布）、講義形式を基本とし、随所に質問応答形式をまじえて授業を行う。

1. 心理学とはなにか（目的、対象、方法、心理学の諸領域）
2. 行動のメカニズム（その1）～行動の種類、感覚支配的行動、習得的行動（その1）
3. 行動のメカニズム（その2）～習得的行動（その2）、シンボル機能、意識と行動の関係
4. 行動のメカニズム（その3）～意識の発生過程
5. 感覚・知覚（その1）～感覚・知覚の分化と統合、網膜とその機能の分化
6. 感覚・知覚（その2）～色彩知覚、視知覚の適応性
7. 感覚・知覚（その3）～形の知覚
8. 学習と記憶（その1）～学習の意義と種類、古典的条件づけ、オペラント条件づけ（その1）
9. 学習と記憶（その2）～オペラント条件づけ（その2）、潜在学習、社会的学習（その1）
10. 学習と記憶（その3）～社会的学習（その2）、技能学習、
11. 学習と記憶（その4）～記憶の過程、記憶の種類、記憶の方略
12. 動機づけと感情・情動（その1）～動機づけの意義と要件、感情の種類、食と性の動機づけ
13. 動機づけと感情・情動（その2）～欲求不満と葛藤、基本的情動（恐怖、怒り）
14. 心理学の歴史
15. 試験

毎回、授業中に、その授業で学ぶべき事項の理解を深めるべく質問を発するが、配布した用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

出席と受講態度（20点）、試験（80点）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川? 成著 『要述 心理学ノート』（開講前に必ず取り揃えること）

【推薦書】鹿取廣人/杉本敏夫〔編〕 『心理学〔第2版〕』 東京大学出版会

【参考図書】宮城音弥著 『心理学入門』 岩波新書

村田孝次著 『教養の心理学』 培風館

今田 恵著 『心理学史』 岩波書店

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人が生きていく上で、他の人との関わりを全く持たなかったり、どの集団にも属さずにいることは不可能である。誰でも、家族や友人、先生や上司といった他の人との交流があり、学校や会社あるいは国などに所属し、更にはある時代や文化の中で生きている。社会心理学とはこれらの人間関係、あるいは集団や文化が、個人のものとの見え方や行動にどのような影響を及ぼすか、あるいは逆に個人が他者や社会にどのような影響を与えるかを扱う心理学の分野である。なぜ差別や偏見は存在するのか。人はどのような人を好むのか。他の人と一緒だと、なぜ一人では決してできないような行動を取れるのか。このような問題を考える際、自分と他者、あるいは社会との係わり合いに関する知識は不可欠である。この授業ではこのような疑問を考える際に役立つような知識を身につけることを目標とする。

内容

(1) 自己概念や対人認知など個人の中の心理過程

- ・ 自己焦点注意：自分自身に注意を向けた場合の思考や行動の特徴
- ・ 社会的認知：自分や他の人に対する認知の特徴
- ・ 社会的比較：自分と他の人を比較する際、どのような相手を選ぶか、比較の結果どのような行動をとるか
- ・ 自己開示/自己呈示：他の人に自分をどのように見せるか

(2) 友人や恋人などの親密な対人関係

- ・ 対人魅力：どのような人が好まれるか
- ・ 社会的衡平理論：人間関係はどのように成り立っているのか

(3) 集団凝集性や集団規範といった集団過程

- ・ 集団凝集性：ずっといたいと思うような集団の特徴はどのようなものか
- ・ 集団規範：集団の見えざる決まりとはなにか

評価

ペーパーテストにより評価を行う。ただし年間授業日数の1/3以上の欠席は単位不認定。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】池上知子・遠藤由美共著 『グラフィック社会心理学』 サイエンス社

【推薦書】セレクション社会心理学 サイエンス社 361.508/S

「自己過程」の社会心理学 東京大学出版会

対人社会心理学 重要研究集 誠信書房 361.5/T/1-7

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人が生きていく上で、他の人との関わりを全く持たなかったり、どの集団にも属さずにいることは不可能である。誰でも、家族や友人、先生や上司といった他の人との交流があり、学校や会社あるいは国などに所属し、更にはある時代や文化の中で生きている。社会心理学とはこれらの人間関係、あるいは集団や文化が、個人のものとの見え方や行動にどのような影響を及ぼすか、あるいは逆に個人が他者や社会にどのような影響を与えるかを扱う心理学の分野である。なぜ差別や偏見は存在するのか。人はどのような人を好むのか。他の人と一緒だと、なぜ一人では決してできないような行動を取れるのか。このような問題を考える際、自分と他者、あるいは社会との係わり合いに関する知識は不可欠である。この授業ではこのような疑問を考える際に役立つような知識を身につけることを目標とする。

内容

(1) 自己概念や対人認知など個人の中の心理過程

- ・ 自己焦点注意：自分自身に注意を向けた場合の思考や行動の特徴
- ・ 社会的認知：自分や他の人に対する認知の特徴
- ・ 社会的比較：自分と他の人を比較する際、どのような相手を選ぶか、比較の結果どのような行動をとるか
- ・ 自己開示/自己呈示：他の人に自分をどのように見せるか

(2) 友人や恋人などの親密な対人関係

- ・ 対人魅力：どのような人が好まれるか
- ・ 社会的衡平理論：人間関係はどのように成り立っているのか

(3) 集団凝集性や集団規範といった集団過程

- ・ 集団凝集性：ずっといたいと思うような集団の特徴はどのようなものか
- ・ 集団規範：集団の見えざる決まりとはなにか

評価

ペーパーテストにより評価を行う。ただし年間授業日数の1/3以上の欠席は単位不認定。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】池上知子・遠藤由美共著 『グラフィック社会心理学』 サイエンス社

【推薦書】セレクション社会心理学 サイエンス社 361.508/S

「自己過程」の社会心理学 東京大学出版会

対人社会心理学 重要研究集 誠信書房 361.5/T/1-7

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

私たちが日常生活のなかで何気なく行っている様々なコミュニケーション活動（友だちと会話をする、携帯電話でメールをする、電話で話す、雑誌をみながら買い物をする、テレビを見る、ゼミなどで発表する、アルバイトで接客をする、授業のレポートを作成する）について、心理学の視点から客観的にとらえ直してみる。

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。

私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

内容

- 対人コミュニケーションの成立
 - コミュニケーションの概念と基本構成要素
 - 対人コミュニケーションの特徴
- 言語・非言語によるコミュニケーション
 - コミュニケーションにおける言語の特徴
 - 非言語メディア ・身体動作と空間行動
- 自分を知らせるコミュニケーション（自己開示）
 - 自己開示の概念と領域
 - 自己開示が果たす機能
- 自分を演出するコミュニケーション（自己呈示）
 - 自己呈示と社会的スキル
 - 防衛的自己呈示と主張的自己呈示
- 人々を動かすコミュニケーション（要請承諾・説得）
 - 説得的コミュニケーションと態度変容
 - 説得の効果を左右する要因 ・要請技法

評価

授業内の小課題20点、期末テスト70点、その他10点の計100点満点により評価を行う。

評価基準となる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	対人社会心理学		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人と人との関係は複雑な要素から成り立っている。知り合いからノートを貸してほしいと言われた時に本当は貸したくなくても、断われないことがある。また同じクラスメイトでも、つい何でも話してしまう友人もいれば、あまり話す気になれない友人もいる。テレビを見れば、残酷な犯罪のニュースがある一方、心温まる美談も報道されている。なぜ人は同じような状況でも、時と場合により異なった行動をとるのだろうか？そのような行動をとらせる条件とはなにか？この授業では、人間の行動が他の人にどのように影響するか、更にその結果その人との関係がどのように変化するかを論じる。また現実の社会の中での社会心理学の利用のされ方、あるいは自らの人間関係での応用の仕方も具体的に説明する。

内容

(1) 友人関係や恋愛関係など人間関係の特徴

- ・ 人間関係の種類と特徴：友人関係と恋愛関係の違いは何か
- ・ 対人葛藤：人間関係の葛藤と崩壊

(2) 二者間のコミュニケーション

- ・ ソーシャルスキル：コミュニケーションのコツとは何か
- ・ 説得と態度変容：効果的な説得とは
- ・ 要請受諾：要請を受け入れてもらうにはどのような方法が良いか

(3) 攻撃と援助

- ・ 攻撃：攻撃性はどのように現れるか
- ・ 援助：援助の条件はなにか
- ・ ソーシャルサポート：どのようなサポートが有効か

評価

ペーパーテストにより評価を行う。ただし年間授業日数の1/3以上の欠席は単位不認定

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】池上知子・遠藤由美共著 『グラフィック社会心理学』 サイエンス社

【推薦書】セレクション社会心理学 サイエンス社 361.508/S

愛することの心理学 思索社

対人社会心理学 重要研究集 誠信書房 361.5/T/1-7

科目名	人間関係の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。 本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的研究に基づいて、人間関係の形成、進展について理解することを目標とする。また受講を通じて、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけとなることを目指す。

内容

対人魅力、対人関係に関わる社会心理学的研究について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある実験を実施する予定である。

- (1) 対人魅力とは何か
- (2) 好意をいかにして測るか
- (3) 外見の美しさの効果
- (4) 環境条件と魅力
- (5) 自分と似ていることの効果
- (6) 好意のやりとり
- (7) 自己開示と好意
- (8) 対人魅力と対人関係
- (9) 対人関係の親密化
- (10) 対人関係の進展・崩壊
- (11) 異性関係～恋愛
- (12) 対人関係の意義

評価

期末テスト80点+授業内の課題10点+出席点10点により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野である。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について概観し、集団における人間の心理について理解を深めるとともに、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点からも考えていく。

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また可能な範囲で講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施したいと考えている。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団の生産性
- (8) 集団と個人

評価

期末テスト80点+授業内の課題10点+出席点10点により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	家族心理学		
担当教員名	齊藤 千鶴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

家族にまつわる心理学を発達の観点あるいは家族システムの観点から学ぶことを目的としています。発達の観点では、家族の成り立つ前の青年期の恋愛過程から結婚を契機とした夫婦の成立過程、そして子どもの出生と同時に親役割の誕生、さらに高齢期の家族までを学びます。家族システムの観点では、家族システム理論について講義した後、その理論を基にした心理臨床実践、すなわち家族療法についても簡単にふれる予定です。

内容

- 1家族とは
- 2健康な家族と家族機能
- 3健康な家族と家族機能
- 4家族作りの準備
- 5家族作りの準備
- 6夫婦の発達とは
- 7夫婦の発達とは
- 8親子の発達とは
- 9親子の発達とは
- 10システムとしての家族 ～家族システム理論
- 11システムとしての家族 ～家族システム理論
- 12家族とパーソナリティ ～家族関係がパーソナリティへ及ぼす影響
- 13家族とパーソナリティ ～家族関係がパーソナリティへ及ぼす影響
- 14高齢者と家族～家族の終焉
- 15定期試験

評価

授業態度と授業への参加の程度と定期試験による総合評価で評価します

授業中のレポート課題30% 出席20% 定期試験50%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しません 推薦書は授業中に随時紹介します

科目名	産業心理学		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

経済状況や社会構造の変化により、社会で働く人の精神疾患罹患率や自殺、過労死の割合が年々高まっている。臨床心理学の領域でも、医療や教育の領域での活動がさかんになるなか、ようやく産業カウンセリングの重要性が認識されるようになってきた。

本授業では、産業領域でのカウンセリング及びメンタルヘルス・マネジメントの役割について取り上げる。社会で働く際に、どのようなことに気をつければ、こころのバランスを崩さずに、自分らしく生きていくことができるかという予防的な観点だけでなく、メンタルヘルスに不調を来した人にどのような援助が望ましいかを事例を交えて解説する。

なお、本授業を履修した受講生は、学内で実施される「メンタルヘルス・マネジメント検定 第 種」の資格試験を受検することができる。

内容

1	メンタルヘルスケアの意義
2	メンタルヘルスケアの方針と計画
3	ストレスの基礎知識
4	メンタルヘルスの基礎知識
5	心の健康問題の正しい態度
6	セルフケアの重要性
7	ストレスへの気づき方
8	ストレスへの対処、軽減の方法
9	自発的な相談の有用性
10	活用できる資源
11	専門相談機関の知識
12	メンタルヘルス・マネジメントの復習（過去の検定試験と解説）
13	メンタルヘルス・マネジメントの復習（過去の検定試験と解説）
14	メンタルヘルス・マネジメントの復習（過去の検定試験と解説）
15	期末試験

評価

授業中の小テスト（15点×3回=45点）と期末試験（55点）を評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大阪商工会議所編 「メンタルヘルス・マネジメント 検定試験 公式テキスト 種 セルフケアコース」中央経済社

科目名	認知心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちの認知機能を心理学的アプローチから理解することを目的とする。認知機能とは、ものごとを考える、何かを記憶する、言葉を読んだり聞いたりして理解する、知識を得るなど頭の中で行われている精神活動である。一例をあげるなら、携帯電話のメールを読むとき、私たちは、日本語に関する文法的な知識、語句の意味に関する知識、身の回りの「世界」についての常識的な知識などの広範かつ膨大な知識を、自動的かつ瞬時のうちに呼び出しているのは利用しているはずである。

本科目では、観察不可能な認知機能の活動プロセスを、心理学的なモデルや理論を通して理解する考え方に慣れるとともに、モデルや理論の実証を通して認知機能の解明をめざす認知心理学の研究方法を科学的に理解することをねらいとする。さらに、講義を通して得た専門的知識や科学的な視点を、日常生活での何気ない知的活動に対する客観的で分析的な理解に活用する態度の育成につなげることを目指す。

内容

1. 認知とは、認知心理学とは何か

- ・情報処理アプローチ
- ・心理学でのモデルとは
- ・脳の機能モデル

2. 知覚の成立

- ・処理様式
- ・状況依存性
- ・注意の役割

3. 記憶のメカニズム

- ・記憶の貯蔵庫モデル
- ・系列位置効果
- ・記銘方略
- ・検索と忘却
- ・再生と再認
- ・日常記憶

4. 知識表象

- ・知識の構造
- ・宣言的知識
- ・手続き的知識
- ・命題表象
- ・概念とカテゴリー
- ・スキーマ

5. 思考と問題解決

- ・演繹的推論と帰納的推論
- ・ヒューリスティックスとアルゴリズム

6. 言語

- ・概念
- ・言語獲得
- ・脳と言語処理

評価

授業内小課題10点、期末試験90点の計100点で評価を行う。評価基準となる学習到達目標は、1) 認知心理学の基礎となるモデル・理論について、日常的な行動との対応を説明できるか、2) 実証的な研究の方法やデータを理解できるか

、である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 「対話で学ぶ認知心理学」 塩見邦雄(編) ナカニシヤ出版

科目名	性格心理学		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

ねらい：なぜ人には「性格」というものがあり、それはどのようなことに影響され、どのように形成されるのかといったことについて、心理学的な基礎知識を身につける。

目標：性格に関する諸理論や性格が形成される過程について学び、自分および他者に対する理解を深める。

概要：なぜ人には「性格」というものがあり、どんな種類に分けられるのか、自分のあるいは他人の性格を変えることはできないかなどといった事柄について学んでいく。具体的には、まず類型論と特性論による性格理論を概観すると同時に、遺伝と性格との関係、環境や文化と性格との関係など性格心理学の基本的な理論について学ぶ。次に、質問紙法や投影法を用いたアセスメントを取り入れ、様々な角度からの性格の理解を通じて自分自身の性格についても理解を深める。

内容

講義の方針：自分を含めて人間の「性格」について興味・関心を持っているものは多いと思われる。したがってこれを学習の動機ととらえ、性格に関する理論的基盤を学ぶと同時に心理アセスメントを使って実践的態度を涵養を促すような講義を行う。

講義の進め方：講義方式を中心に適宜ビデオ視聴や実習などを取り入れる予定である。教科書は使用しないが、講義内容をより深く理解するために推薦書などを利用した復習を勧める。なお、授業中もしくは授業後に、トピックに関する意見や感想などの提出を求めることもある。

内容：主に以下のトピックスを15回に分けて取り扱う予定である。

- 1) 性格とは何か～イントロダクション
- 2) 類型論による性格の理解
- 3) 特性論による性格の理解
- 4) 性格と諸要因～遺伝・環境・文化と性格
- 5) ライフサイクルと性格の発達
- 6) 対人関係と性格～親子関係、友人関係
- 7) 性格心理アセスメント～交流分析による自己理解と人間関係
- 8) 性格と病
- 9) 性格と適応

評価

【評価の方法】出席、講義への参加度、試験を総合的に評価する。配分は、出席：30点、講義レポート（講義中に数回課す予定）：20点、試験：50点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。

【推薦書】清水弘司著 『はじめてふれる性格心理学』 サイエンス社 1998

【参考図書】授業中に適宜紹介します。

科目名	食の心理学		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学を日常の生活や行動と結びつけてみることを考える時、最も身近に取り上げられるのが、食事の問題である。この授業では、さまざまな観点から、食事と心の関係を探求していく。

内容

1. 基礎体温と食事について。
2. 女性の生殖と飲食の関係
3. 飲食のメカニズム
4. 心理テストにあらわれる基礎体温の影響。
5. (1) バウム テスト
6. (2) パーソナリティ インベントリー
7. (3) YGテスト
8. (4) PFスタディ
9. 個人差と体質
10. 食事を作る人と食べる人(例:母と子)の関係を探る。
11. (1) 自我を育てる食事
12. (2) 思春期の食事
13. (3) 共食の意味
14. 社会や文化が人間の食事や健康意識に及ぼす影響
15. まとめ

評価

授業中の小レポートなど平常点30点,期末のレポート70点で評価する。

合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中にプリントを配布する。

- 【推薦書】A.W.ローグ 木村定訳 『食の心理学』 青土社 【所蔵無】
 二木 武他編 『小児の発達栄養行動』 医歯薬出版 493.91/S
 D.ラプトン 武藤隆他訳 『食べることの社会学』 【所蔵無】

科目名	身体運動の心理学		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1, 2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身体と心, 脳に関する話題を概観しながら, 人間を観る眼をより柔軟にしたい。心や意識, 記憶や性格は箱に入って固定されている訳ではなく, 身体運動による環境との相互作用から立ち上がるダイナミックな現象である。つまり心は身体運動と密接に関連している。したがって心について深く考えるには, 身体運動の基礎知識が不可欠である。この授業では, 大きく三つの話題を取り上げる。それらは, 1)身体が動く仕組み(筋骨格系から脳までの機能と構造), 2)運動制御と運動学習の仕組み, 3)身体運動と心理学との関わり(スポーツ心理学の基礎)である。これらを踏まえて改めて人間を見直し, 心の多様さについて考える。

内容

進度に応じて新たな話題を盛り込むが, 昨年度の授業内容とキーワードは以下の通り:

1. イントロダクション(心と身体と環境とは「くっついて」いる。心のくっつける働きと分ける働き)
2. 骨の構造と筋肉の動き: 筋肉のつき方, 股関節の理解, 二足歩行の進化学
3. 力を発揮する仕組み: 腕ずもう必勝法, 外力と反射, 腱
4. 脳構造のイロハ: BrainVoyager Tutorを用いた脳構造の理解, 脳の階層性, 脳部位の概略, 神経細胞
5. 脳の処理過程を楊枝で実習する: ニューラルネットでおやつ代計算
6. 脳の左右差と感覚運動系: 運動野の階層, 運動・感覚ホムンクルス
7. 環境とやり取りする脳: 遠心コピー(自分でくすぐってもくすぐったくないのはなぜ?)
8. 気分・性格と運動: POMSで気分を測定, 性格の特性論によるスポーツ参加者の分類, 社会的学習理論
9. 運動と動機づけ: 外発的vs内発的動機づけ, 帰属と再帰属訓練(やる気とその維持)
10. 運動の記憶: 記憶の分類, 文脈干渉効果, 記憶の定着過程(記憶が染み込むには時間がかかります)
11. 運動学習入門: 運動学習の過程(「わかる」と「できる」は違うのです), フィードバックと汎化
12. 発達障害と脳(その時点で最新の知見を紹介します)
13. 記憶の動的過程(「ロード」の記憶の定着と再編成。思い出はいつまでも美しいのか?)
14. まとめ(試験対策)
15. 試験

純粋な講義でなく, 簡単な実験や演習を折り込みながら授業を進める。各講義の後に簡単なエッセイを課すので, 講義内容について積極的に考え, 自分なりの考えをまとめることを求める。優れたエッセイは次回授業で紹介し, 討議の材料にする。

評価

出席(50%)と筆記試験(50%)を評価の対象とします。合計で60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】ジャービス著, 工藤和俊・平田智秋訳「スポーツ心理学入門」新曜社

科目名	文化と人間形成		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

発達心理学は文化的な背景と切り離すことができない。日本の文化のなかで人が育つ過程と他の文化（欧米、アフリカ、インド）のなかで育つ人々の比較を通して、人がどのように文化のなかで作られていくかを考える。また今日の多文化共生社会のなかで、文化的背景の異なる子どもたちが共に育つために大人が何をすべきかについて考える。

内容

資料、映像、図を用いて、できるだけわかりやすい授業をしたい。

1. 社会・文化のなかの社会化過程
2. 世界のさまざまな子育て
3. アフリカ、インドの伝統的育児
4. 西洋の育児の伝統
5. 日本の育児と子育て観
6. 社会化過程の日米比較
7. 保育の場での社会化の日仏比較
8. 文化パターンと価値観
9. 国際比較からみる日本人の「自己」の発達
10. 世界の教育と文化、国際比較からみる日本の教育
- 11～12. 多文化多民族社会における子どもと教育
- 13～14. 日本における多文化共生保育・教育、まとめ。
15. 試験

評価

期末レポート(60点)、授業時のレポート(20点)および授業時の積極的な討論参加(20点)。合格点60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【推薦書】恒吉僚子 「人間形成の日米比較」中公新書 1992
東洋 「日本人のしつけと教育」東京大学出版会1994
- 【参考図書】土居健郎 「甘えの構造」 弘文堂

科目名	創造性の心理学		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「創造性」という言葉は、よく使われているが、そのわりには、その意味や思考方略をきちんと心得ている人はとても少ないようである。そこで、この科目では、創造性に対する確実かつ実りある理解を図るとともに、紙上エクササイズを通して創造的思考力を身につけることを目的とする。

内容

1. 創造性とは(その意味と重要性、創造的思考力、創造的技能、創造的人格)
2. 問題発見の方法(問題とは、問題発見の諸方略)
3. 創造的思考の過程(ワラスの4段階説ほか)
4. 創造的思考の方略～<拡張>
5. 創造的思考の方略～<焦点化>
6. 創造的思考の方略～<観点変更>
7. 創造的思考の方略～<逆発想>
8. 創造的思考の方略～<分類・分解>
9. 創造的思考の方略～<加減>
10. 創造的思考の方略～<結合>
11. 創造的思考の方略～<変換>
12. 創造的思考の方略～<類推>
13. 創造的思考の方略～<反復検討>
14. 創造的思考の方略～<弁証法的解決>
15. 試験

以上の事項について、毎回、教科書を使って(別途、資料を配布することがある)、講義形式で授業を行う。授業中に、関連事項について質問を發して、挙手の形で答えてもらうという質問応答形式を取り入れていく。それに続いて関連課題を課して(用紙を配布)、実際に30分間ほど(個別ならびにグループで)課題に取り組み考えて書いてもらう。その後にそれを発表してもらう。記述した配布用紙は毎回提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。思考力は、スポーツやお稽古事と同じく、単なる知識の習得だけでは身に付かず、実際に実行してみることが不可欠だからである。

なお、課題によっては、宿題にしてレポート提出を求めることがある。

このようにして、創造的思考の方略について理解を深めるとともに、創造的思考力を体験的に伸ばしていくことをねらっている。

評価

平常点つまり毎回の課題の出来栄え(40点)、試験(60点)の計100点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】江川? 成著 『子どもの創造的思考力を育てる 16の発問パターン』 金子書房

【推薦書】江川? 成著 『発想のヒント 創造的思考力をのばす』 大日本図書 141.5/E

【参考図書】高橋誠編著 『新編 創造力事典』 日科技連

日本創造学会編 『「驚き」から「閃き」へ(創造性研究9)』 共立出版

科目名	子どもの生活支援		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

子どもとは、形態的にも機能的にも成長発達の途上にあり、すべてが未完成であり、未熟であり、内外的環境の影響を受けて成長発達していく。ここでは特に乳幼児期の子どもを中心に、心身の未発達から起こりやすい健康障害に対する養護、および子どもの健全な成長発達を促進するための基本的な生活援助について学習する。

内容

講義、養護の実技、グループワークとプレゼンテーションにより展開する。

1. 子どもと社会環境
2. 出生前育児
3. 子どもの発育・発達（形態機能・生理機能・運動精神機能）
4. 乳幼児の生活と養護
5. 子どもの病気と看護
6. 乳幼児の事故と応急処置

評価

授業への参加状況（20点）、学生のプレゼンテーション（30点）、レポート（50点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】瀬江千史 改訂版『育児の生理学 医学から説く科学的育児論』 現代社

内藤寿七郎編 『最新育児学』 同文書院 599/S

日本外来小児科学会編著 『お母さんに伝えたい 子どもの病気ホームケアガイド』 医歯薬出版 598.3/N

科目名	養護概説		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護の概念、養護教諭の沿革と職務に関わる内容について理解させ、養護教諭の役割について学ぶ。各領域について、養護教諭の活動の具体的な方法や留意しなければならない事柄を示しながら、最新の子どもの心身の健康状況やそれに対応する施策などの情報に基づいた授業を展開する。さらに、近年の子どもの心身の健康問題に的確な判断と対応するために必要とされている学校内の関係者や地域の関係機関等との連携の重要性の理解など、養護教諭に求められている資質能力の育成を目指すものである。

内容

1	教育関係法令と教育行政、学校教育と学校保健
2	養護教諭の職務について(1)
3	養護教諭の職務について(2)
4	保健管理について(1)
5	保健管理について(2)
6	保健管理について(3)
7	保健教育について
8	健康相談
9	子どもの現代的な健康課題とその対応について
10	保健室経営について(1)
11	保健室経営について(2)
12	学校保健組織活動について
13	安全管理と危機管理について
14	学校医、学校歯科医、学校薬剤師について
15	試験

評価

期末テスト70点、平常点30点で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「新養護概説」第5版 編集代表 采女智津江 (株)少年写真新聞社

【推薦図書】「新訂版学校保健実務必携」第2次改訂版 学校保健・安全実務研究会 (株)第一法規
その他必要により紹介する

科目名	健康相談活動		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

不安や悩みなど心身の健康問題を抱えて保健室を訪れる子どもが多くなっている。子どもの訴える身体的不調の背景に心の健康問などが潜在しているといわれており、養護教諭は、子どものサインにいち早く気づく立場にあることで、体のことにとどまらず心の健康づくりのための対応も求められている。さらに児童虐待やいじめ問題等への対応にも期待されている現状がある。養護教諭に必要とされる子どもの行動や健康状態等の観察力、気づきそして判断力、そして相談に必要とされる心理学の知識を基盤にしたカウンセリング能力を担保するための知識と技能の習得を目指すものである。

内容

1	養護教諭の行う健康相談について(1)
2	養護教諭の行う健康相談について(2)
3	養護教諭の行う健康相談の基本と求められる資質能力について(1)
4	養護教諭の行う健康相談の基本と求められる資質能力について(2)
5	児童生徒の心身の発達段階における課題について(1)
6	児童生徒の心身の発達段階における課題について(2)
7	現代的健康課題について(1)
8	現代的健康課題について(2)
9	課題解決に向けた織体制づくりと連携について(1)
10	課題解決に向けた組織体制づくりと連携について(2)
11	相談の実際(演習)(1)
12	相談の実際(演習)(2)
13	相談の実際(演習)(3)
14	相談の実際(演習)(4)
15	試験

評価

期末テスト70点、平常点(提出物など)30点で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	免疫学		
担当教員名	扇元 敬司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達心理に關与している免疫システム、とくに生体防御機構としての免疫システムおよび免疫異常である免疫不全、自己免疫疾患、アレルギーについて自著の教科書を用いて講義する。

なお使用した「スライド一覧」は、講義後、学内ネットワーク・フォルダUドライブに開示する。

内容

- 1.免疫学とアレルギーの歴史。
- 2.自然免疫システム。
- 3.免疫を担当する器官と細胞。
- 4.獲得免疫システム。
- 5.サイトカイン・エフェクター細胞。
- 6.感染症とワクチン。
- 7.エイズ・免疫不全症。
- 8.アレルギー・アナフラキシー。
- 9.アレルギー対策・予防・検査法。
10. アレルゲン。
- 11.花粉症・鼻アレルギー。
- 12.アトピー・アレルギー性鼻炎。
- 13.小児アレルギー・気管支ぜんそく。
- 14.食物アレルギー・環境アレルギー。
- 15.職業アレルギー・心理免疫アレルギー。

評価

平常点(中間テストなど)30点、期末テスト70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】扇元敬司 著 『わかりやすいアレルギー・免疫学講義』 講談社(2007)

【推薦書】扇元敬司 著「心理免疫学概論」 川島書店(2008)

科目名	衛生学		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

主に感染症について講義する。疾病から免れ、健康を保持・増進し、生命を延長し、身体的・精神的機能を十分に発揮生きていくことはすべての人間の願いである。特に、養護教員を目指す学生にとって、微生物学についての正確な知識を必要とする。そのため感染症予防のため発生要因(感染源、感染経路、および感受性者)と病原微生物の形態、性質、それらによってもたらされる感染症、特にウイルス性疾患について詳しく講義する。

内容

- | | |
|---------------|------------------------|
| 1. 感染症の発生要因 | 感染源 |
| 2. 感染症の発生要因 | 感染経路 |
| 3. 感染症の発生要因 | 感受性者(免疫と予防接種) |
| 4. 感染症の歴史 | 新興感染症と再興感染症 |
| 5. 病原微生物 | 概論(病原性、毒力、発病量、抵抗性など) |
| 6. 病原微生物 | 化学療法剤と耐性菌 |
| 7. ヒトと微生物の共存 | |
| 8. 病原微生物と感染症 | 原虫、スピロヘータ |
| 9. 病原微生物と感染症 | 細菌 |
| 10. 病原微生物と感染症 | 細菌感染症(赤痢、コレラ、大腸菌) |
| 11. 病原微生物と感染症 | 細菌感染症(結核) |
| 12. 病原微生物と感染症 | リケッチャ |
| 13. 病原微生物と感染症 | ウイルス |
| 14. 病原微生物と感染症 | ウイルス感染症(風邪、インフルエンザ) |
| 15. 病原微生物と感染症 | ウイルス感染症(新型インフルエンザ、エイズ) |

評価

4回のペーパーテストによる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】村松宰、梶本雅俊編 『公衆衛生学 栄養科学シリーズ』 講談社

科目名	公衆衛生学		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人は生命を育む自然環境、日常生活を支える生活環境および社会環境の中で生きている。健康で豊かな生活を確保するためには、環境に適応するだけでなく、環境を変えていく必要がある。健康を保持・増進し、生命を延長し、身体的・精神的能力を十分に発揮することは多くの人々が望むところである。一人ひとりが衛生的な生活を営むことにより公衆衛生が達成される、また公衆衛生が達成されれば個人の衛生も守られる。人の衛生は直接的には物理的、化学的および生物学的環境にかかわりあい深く、それらが生体に及ぼす影響について講述する。

内容

- | | | | |
|-----|-----|--------------|---------------------------|
| 1. | 1 章 | 物理的要因による健康障害 | 紫外線 |
| 2. | | 物理的要因による健康障害 | 熱中症、高山病、 |
| 3. | | 物理的要因による健康障害 | 放射線障害 |
| 4. | 2 章 | 物質の安全性 | 毒性の発現、摂取量と生体反応 |
| 5. | | 物質の安全性 | 食品添加物の安全性 |
| 6. | | 物質の安全性 | 発ガン物質(ニトロソアミン、カビ毒、ダイオキシン) |
| 7. | | 物質の安全性 | 粉塵、アスベスト |
| 8. | | 物質の安全性 | ナノマテリアル |
| 9. | 3 章 | 屋内環境 | 近隣騒音 |
| 10. | | 屋内環境 | 化学物質過敏症 |
| 11. | | 屋内環境 | ダニアレルギー |
| 12. | 4 章 | 環境問題 | 従来 of 公害問題 |
| 13. | | 環境問題 | 個人が発生源になる都市型公害 |
| 14. | | 環境問題 | 環境ホルモン |
| 15. | | 環境問題 | 地球温暖化 |

評価

単元毎、4回のペーパーテストによる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】村松宰、梶本雅俊編 『公衆衛生学 栄養科学シリーズ』 講談社

科目名	看護学概論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

看護の対象は、さまざまな環境の中で生活をし、多様な健康レベルにある人間である。看護では、対象の健康の回復あるいは増進をはかり、対象の欲求を充足することをめざします。ここでは、人間の健康と生活を理解し、人間が本来持っている自然治癒力の向上を目指すために、根拠に基づいた看護実践の基礎となる理論および看護の視点を学び、看護援助の基礎的知識を学習する。

内容

1. 看護と健康(看護の本質と看護の対象、人間の尊厳)
2. 安全と安楽
3. 看護におけるコミュニケーションの基礎
4. 看護における観察と看護過程
5. ライフサイクルと看護
6. 生活環境の調整と看護
7. ニードの充足と看護(食事・排泄・清潔・運動・睡眠休息)

*後期に「看護援助方法」の履修を予定している学生は、本科目単位を取得しておかないと、「看護援助方法」は履修できません。

評価

レポート(20点)、筆記試験(80点)により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】中桐佐智子・天野敦子・岡田加奈子編著 『最新看護学 学校で役立つ看護技術』東山書房
- 【推薦書】坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の基本』ニューヴェルヒロカワ
坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の実際』ニューヴェルヒロカワ
薄井坦子著 『科学的看護論』日本看護協会出版会
- 【参考図書】V.Henderson著 湯楨ます・小玉香津子訳 『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を習得する。看護の対象である人が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。
とくに、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	フィジカルアセスメント
3	フィジカルアセスメント
4	バイタルサインズ
5	バイタルサインズ
6	ヘルスアセスメント技術実習
7	感染防御
8	感染防御
9	感染防御実習
10	体位変換と移動の実習
11	苦痛軽減のための援助
12	苦痛軽減のための援助
13	創傷保護のための援助
14	包帯法の実習
15	試験

評価

授業への参加状況(10点)、筆記試験(90点)により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】看護学概論で使用した『最新看護学 学校で役立つ看護技術』の教科書を使用

【推薦書】江口正信他著 『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社

日野原重明監修 『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

【参考図書】犬塚久美子編著 『ひとりで学べる基礎看護技術Q&A』 看護の科学社 492.9/H

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を習得する。看護の対象である人が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。
とくに、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	フィジカルアセスメント
3	フィジカルアセスメント
4	バイタルサインズ
5	バイタルサインズ
6	ヘルスアセスメント技術実習
7	感染防御
8	感染防御
9	感染防御実習
10	体位変換と移動の実習
11	苦痛軽減のための援助
12	苦痛軽減のための援助
13	創傷保護のための援助
14	包帯法の実習
15	試験

評価

授業への参加状況(10点)、筆記試験(90点)により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】看護学概論で使用した『最新看護学 学校で役立つ看護技術』の教科書を使用

【推薦書】江口正信他著 『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社

日野原重明監修 『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

【参考図書】犬塚久美子編著 『ひとりで学べる基礎看護技術Q&A』 看護の科学社 492.9/H

科目名	小児保健看護学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもの看護として、ここでは特に、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、看護援助を学習する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患や障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

内容

1	子どもの身体の解剖生理
2	子どもの身体の解剖生理
3	子どもの健康状態の把握
4	学校伝染病
5	学校伝染病
6	学校伝染病
7	子どものアレルギー疾患
8	子どものアレルギー疾患
9	子どもの腎疾患
10	子どもの腎疾患
11	子どもの心疾患
12	子どもの心疾患
13	子どもの糖尿病と肥満
14	子どもの精神・神経系疾患
15	試験

評価

小テスト(15点)、期末試験(85点)にて総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】田中哲郎 『教員に必要な子どもの健康知識』 東山書房

加藤忠明・西牧謙吾・原田正平編著 『すぐに役立つ小児慢性疾患支援マニュアル』 東京書籍

【推薦書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K

【参考図書】村田光範・浅井利夫編 『小児疾患生活指導マニュアル』 南江堂

科目名	救急処置活動		
担当教員名	山本 和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校で起こりやすい怪我や急病に対応できるように、傷病についての基本的な知識と対処方法を学ぶ。

1. 応急処置を必要とする傷病の基本的な知識を学ぶ
2. 応急処置の基本的な実際を学ぶ
3. 心肺蘇生法の実際を学ぶ

内容

1. 救急処置の基本
 1. 学校で起こりやすい外傷時の応急処置
 2. 内科的疾患の応急処置
 3. 心肺蘇生法
 4. 実技演習
 - ・ 包帯法の実際
 - ・ グループワークによる救急時の対応

評価

出席40点、実技評価60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】山本公弘著 『イラストでわかる応急処置のすべて - 緊急度とその対応 - 』 東山書房
『応急手当講習テキストー救急車がくるまでにー』改訂3版 東京法令出版株式会社

- 【推薦書】川崎慶一著 『改訂 新保健室の救急辞典』 東山書房

科目名	臨床看護実習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

看護の視点で感染管理や疾患・障害を持った子ども達を学校現場で支えることができる養護教諭としての基礎的能力を培うことを狙いとし、以下のことを学習の目標としている。

- 1.感染管理に関して、学校現場に当てはめた場合、どのように取り扱うことがよいのか考え、適切な対処や行動をとることができる。
- 2.慢性疾患や障害をもった子ども達を地域の学校(養護学校を含む)で受け入れる際に、適切な援助が理解でき、対処・行動することができる。
- 3.身体不調や異常を訴える子ども達に対して、症状を見極める能力を身に付け、適切なケアが理解でき、関係機関との連携のあり方がわかる。

内容

病院での臨床講義と見学実習および学内での演習を通じて、以下のことを学ぶ。

- 1.施設内における感染管理(清潔・不潔の取り扱い)の実際を知り、学校現場での適切な対処や行動を理解する。
- 2.疾病や障害を持った子どもたちが、疾病・障害などに対してどのように取り組んでいるのかを理解する。
- 3.疾病や障害を持った子ども達のQOLについて考える。
- 4.医療施設内の多くの職種の連携と機能を知り、さらに医療機関と地域・学校との連携のあり方を学ぶ。
- 5.身体不調や異常を訴えて保健室に来る子ども達に対して、適切な状況の判断と必要な看護援助を理解する。

養護教諭免許取得を本気で目指している学生で、かつ、「看護学概論」「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」「衛生学」の単位を修得している学生を対象とする。

評価

授業・実習の参加状況(50点)およびレポート(50点)により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」等で使用したテキストを準備しておくこと。他にも、授業の中で提示していく。

【推薦書】衛藤隆他編 『最新Q & A教師のための救急百科』 大修館書店

【参考図書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- ・福祉政策の課題について理解する。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 福祉制度の概念と理念
- 2 福祉制度の概念と理念
- 3 福祉制度と福祉政策の関係
- 4 福祉政策と政治の関係
- 5 福祉政策の主体と対象
- 6 福祉の原理をめぐる理論・哲学・倫理
- 7 前近代社会と福祉(救貧法、慈善事業、博愛事業、相互扶助、その他)
- 8 近代社会と福祉(第二次大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉、その他)
- 9 現代社会と福祉(新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化、リスク社会、福祉多元主義、その他)
- 10 需要とニーズの概念(需要の定義、ニーズの定義、その他)
- 11 資源の定義(資源の定義、その他)
- 12 福祉政策と社会問題(貧困、孤独、失業、要援護〔児童・高齢・障害・寡婦〕、偏見と差別、社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他)
- 13 社会政策の現代的課題(社会的包摂、社会連帯、セーフティネット、その他)
- 14 福祉政策の課題と国際比較(国際動向を含む)
- 15 授業の総まとめ(ペーパー試験を含む)

評価

出席40点及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト]

- ・塩野敬祐・福田幸夫編『現代社会と福祉 - 社会福祉 福祉政策』弘文堂
- ・『福祉小六法 2010』みらい社

科目名	児童福祉論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1 現代社会における子ども・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援及び青少年育成等）と実際を理解する。
- 2 子ども・家庭制度の発展過程を理解する。
- 3 子供の権利（子どもの最大の利益実現する視点）を理解する。
- 4 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらましを理解する、

内容

- 1 子ども・家庭福祉の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 2 子ども・家庭福祉の理念と歴史
- 3 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらまし
- 4 児童福祉施設の概要

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度 ミネルヴァ書房

参考図書 社会福祉六法

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 20年間進行している少子化社会における子育てのあり方の理解と支援について理解する。
- 子どもの権利を守る視点から子どもの成長、発達に係る課題を理解する。

内容

- 子ども家庭支援の実施体制について
- 子ども家庭福祉実践に係るソーシャルワーク
- 子ども家庭福祉に係る課題
 - 「非行」について
 - 「情緒障害」について
 - 「情緒障害」について
- 社会的養護の状況と課題
 - 児童福祉施設
 - 里親制度

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に紹介する

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

精神保健の意義、精神障害の基礎知識、精神保健福祉制度の概要について理解する。

生活の場及びライフサイクルにおける精神保健の役割について理解し、この中で保健福祉の視点や多様な支援の広がりについて理解する。

精神保健福祉の歴史的、社会的背景を学ぶ。とりわけ脱施設化、地域での当たり前の暮らしの実現に向ける事を援課題を理解する。そのために、地域支援が展開されている場に出かけることを勧めている。

内容

精神保健福祉の意義

精神保健/福祉とは何か

現代社会における精神保健福祉の重要性

精神的不健康の広がり

「自殺」を例に考える

予防・回復における精神保健福祉の役割

精神障害の基礎知識

代表的な疾病の概要 (統合失調症、中毒性精神 、気分障害、その他)

老年期の精神障害(認知症)

精神保健福祉政策を考える

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の変遷と概要

精神保健福祉の理念と実践(脱施設化と地域生活支援)

精神保健福祉士の役割と他職種との連携

当事者や家族による自助グループの活動

事例に見る精神障害者地域支援

新座市における活動を考える

評価

平常点30点 試験70点、 60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書】大熊由紀子等編著「精神保健福祉論」ミネルバ

【推薦書】野末浩之「こころ・からだ・くらし」精神障害者の理解と地域支援 萌文社

成清美治, 加納光子, 藤本豊、花澤佳代編「よくわかる精神保健福祉」ミネルバ書房
大熊一夫「精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本」岩波書店

科目名	レクリエーション論		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

レクリエーションの中で行われるさまざまな遊びや活動、それによってもたらされる「楽しさ」は、人々の成長や生きがい、人と人のつながりなど、とても多くのものを創り出します。また、レクリエーションを意図的に活用することで、人々はいきいきと生きがいを感じながら生きることができます。

今、レクリエーションは、健康づくりや高齢者・障害者福祉・子育て支援・保育・教育・地域づくり・環境教育など幅広い領域で取り入れられています。そうした中、対象者の主体性を尊重した姿勢など、レクリエーション支援の重要性を理解し、身近な人びとを支援する活動・事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技術や援助法など、実践を取り入れながら学んでいきます。

内容

1. レクリエーションの基礎理論

- (1) レクリエーションの意義 レクリエーションとは何か・・・
- (2) レクリエーション運動の歴史とその背景
- (3) レクリエーション制度

2. レクリエーション支援論

- (1) ライフスタイルとレクリエーションの意義
- (2) 少子化の課題とレクリエーション
- (3) 地域とレクリエーション

3. レクリエーション事業論

- (1) レクリエーション事業の考え方
- (2) レクリエーション事業の展開方法
- (3) プログラムの組み立て方

4. コミュニケーション・ワーク

- (1) レクリエーションにおけるホスピタリティ
- (2) 非言語コミュニケーション
- (3) アイスブレイキングの意義

5. レクリエーション・ワークの重要性

- (1) 目的や対象に合わせたレクリエーション・ワーク
- (2) 素材・アクティビティの選択

評価

出席、学習態度(40)点 ペーパーテスト(60)点、他、ふりかえりシートにより評価 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しません

【推薦書】レクリエーション活動援助法 新版第3版 福祉士養成講座編集委員会〔編〕中央法規出版
ホスピタリティをみかく本 ホスピタリティ・トレーニング研究会編著 遊戯社

【参考図書】レクリエーション支援の基礎 財団法人 日本レクリエーション協会

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、障がいを持つ人々が能力を発揮できる状態にし、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復ばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復も図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。

内容

1	リハビリテーションの理念
2	リハビリテーションの目的と対象
3	リハビリテーションの組織
4	障がいの受容過程とQOL
5	死別とグリーフワーク
6	ライフサイクルとリハビリテーション
7	子どものリハビリテーション 心身障がい児の基礎知識
8	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション 広汎性発達障害と学習障害
10	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	施設におけるリハビリテーション
14	地域におけるリハビリテーション
15	試験

評価

授業への参加状況(10点)、レポート(20点)、筆記試験(70点)により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには』 中央法規 492.9/R

科目名	卒業研究		
担当教員名	鶴木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月末に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

卒業研究を執筆し、提出する。学生の多くにとって、この研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究には書き手のオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追求する価値のあるテーマをもつこと、そのテーマを掘り下げあるいは実証するなかで、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追求し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬の予定。

提出論文の長さは400字詰め20枚以上。

9月に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当指導教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の審査および作成過程の指導（平常点）による総合的な評価。60点以上合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学生個別に対応する。

科目名	青年期の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

青年期は、「子ども」から「大人」への移行期であり、身体的・性的成熟、精神的・社会的成熟が相互に関わりあって人格の統合へと向かう時期である。この時期には、「疾風怒濤」、「アイデンティティ形成」などの言葉に表されるようにいくつかの難しい発達課題に直面することになる。本講義では、青年期の成立や青年心理学の研究方法を学習するとともに、青年期の身体的発達、自己とアイデンティティ、性と性役割、職業観と進路選択など青年期の心理学的問題に焦点をあて、わかりやすく解説していく。受講生が、講義内容を自分自身の問題としてとらえ、自ら考える契機となることを目標とする。

内容

青年期の心理学に関する以下の内容について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある心理テストなども実施したいと考えている。

- (1) 青年期とは
- (2) 青年期の成立
- (3) 青年心理学の研究手法
- (4) 青年期の身体的発達
- (5) 青年期の自己意識
- (6) アイデンティティ
- (7) 性役割について
- (8) 職業観と進路選択
- (9) 青年期の孤独感
- (10) まとめ

評価

期末テスト55点+中間テスト20点+授業内の課題10点+出席点15点とする。60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配付する。

科目名	文化と発達		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育、特に乳幼児期の教育・保育は子どもが育つことについての文化的な背景と切り離すことができない。日本の文化のなかで人が育つ過程と他の文化(欧米、アフリカ、インド)のなかで育つ人々の比較を通して、人がどのように文化のなかで作られていくかを考える。また今日の多文化共生社会のなかで、文化的背景の異なる子どもたちが共に育つために大人が何をすべきかについて考える。

内容

資料、映像、図を用いて、できるだけわかりやすい授業をしたい。

1. 社会・文化のなかの社会化過程
2. 世界のさまざまな子育て
3. アフリカ、インドの伝統的育児
4. 西洋の育児の伝統
5. 日本の育児と子育て観
6. 社会化過程の日米比較
7. 保育の場での社会化の日仏比較
8. 文化パターンと価値観
9. 国際比較からみる日本人の「自己」の発達
10. 世界の教育と文化、国際比較からみる日本の教育
- 11~12. 多文化多民族社会における子どもと教育
- 13~14. 日本における多文化共生保育・教育、まとめ。
15. 試験

評価

期末レポート(60点)、授業時のレポート(20点)および授業時の積極的な討論参加(20点)。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】恒吉僚子 「人間形成の日米比較」中公新書 1992
 東洋 「日本人のしつけと教育」東京大学出版会1994
- 【参考図書】土居健郎 「甘えの構造」 弘文堂

科目名	発達心理学特講 A		
担当教員名	内田 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

言語と認識の関わりからの視点から、以下の5つのトピックを取り上げ、人間発達過程について理解するとともに、言語発達・認知発達の発達心理学的研究方法論の基礎を理解する。

内容

- 1.人間発達の可塑性(1) 養育剥奪の6つのケース
- 2.人間発達の可塑性(2) 子どもが発達するのにどのような要因が不可欠か
- 3.人間発達の可塑性(3) 人間発達の可塑性
- 4.言語・認知の発達(1) 言語獲得に制約を与える生物学的基礎
- 5.言語・認知の発達(2) 第2言語の獲得
- 6.言語・認知の発達(3) 大脳機能と言語獲得の関係
- 7.想像力の発達(1) 既成のものを乗り越える想像のメカニズム
- 8.想像力の発達(2) 想像力の発達過程
- 9.想像力の発達(3) 想像と創造の関係
- 10.読み書き能力の獲得(1) 入門期の読み書きの学習
- 11.読み書き能力の獲得(2) 読み書き能力の獲得のメカニズム
- 12.読み書き能力の獲得(3) 書きことばの獲得と認識の変質
- 13.子ども理解(1) 現代日本の子どもの育ち
- 14.子ども理解(2) しつけと学校環境
- 15.子ども理解(3) 社会の育児機能

評価

講義への参加度(質問、討論)20点、講義終了時の授業へのコメント10点、期末テストレポート70点で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書:内田伸子 発達心理学—ことばの獲得と教育— 岩波書店、2002年版

推薦書:藤永保・斎賀久敬・春日喬・内田伸子 人間発達と初期環境 有斐閣、1987

内田伸子 子どもの文章—書くこと・考えること 東京大学出版会 1990

内田伸子 言語発達心理学 放送大学教育振興会 1998

内田伸子 想像力—創造の泉を探る— 講談社、1994

科目名	発達心理学特講 B		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間は社会的な動物であり社会と関わり合うことなしに生きていくことは出来ない。社会に適応し、よりよく生きていくためには、自分の所属する社会での適切なふるまい方や社会のルールに従った行動を身につけていく必要がある。私たちは、生まれてからの発達過程の中で、こうした社会の一員として必要な様々な知識や行動を獲得していく。社会性とは「社会の一員であること」を意味し、その社会の一員へと発達していく過程を社会化とよぶ。この講義では、人間がどのようにして社会化を遂げ、社会性を発達させていくかについて、心理学的な観点から考えていく。受講を通じて、人間が社会の一員となっていく過程について、自分自身の問題ともあわせて理解を深めることを目標とする。発達過程における社会化に関わる問題として、社会性の基礎：愛着、家族関係と社会化、人間関係の発達、自己の発達、道徳性の発達、職業的社会化、などをとりあげ、これらの研究知見について解説していく。

内容

社会性の発達過程に関わる心理学的研究について講義形式で解説する。また可能な範囲で講義内容と関連する心理テストなどを実施したいと考えている。以下の内容を予定

- (1) 社会性の基礎：愛着
- (2) 家族関係と社会化
- (3) 人間関係の発達
- (4) 自己の発達
- (5) 道徳性の発達
- (6) 職業的社会化
- (7) 社会性に関わる2つの次元
- (8) まとめ 人の社会性とは

評価

期末テスト90及び出席点10点により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

【推薦書】永田良昭 「人の社会性とは何か」ミネルヴァ書房 2003

科目名	カウニング基礎		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

カウニングの実務に際して必要な基本的事項について、きちんと理解を図るとともに、来談者理解や傾聴の技術について紙上エクササイズによって身につけていくことを目的とする。

なお、この科目では、2年次に履修した「心理学概論」「発達心理学概論」「臨床心理学概論」「カウニング基礎」等を背景にして、それらとの関連性をもたせて授業を行う。

内容

1. カウニングの方法原則(その1)
2. カウニングの方法原則(その2)
3. カウニングのすすめ方
4. ラポールと共感的理解の図り方(その1)
5. ラポールと共感的理解の図り方(その2)
6. 紙上エクササイズ(その1)～ラポールづくりと共感的理解について
7. 来談者理解の深化の方法(その1)
8. 来談者理解の深化の方法(その2)
9. 来談者理解の深化の方法(その3)
10. 紙上エクササイズ(その2)～問題の原因の分析、深層心理について
11. 働きかけの技術(その1)
12. 働きかけの技術(その2)
13. 働きかけの技術(その3)
14. 紙上エクササイズ(その3)～助言・情報提供・説得について
15. 試験

授業は、毎回プリントを配布して講義形式で行う。なお、必要に応じて質問を発して考えて答えてもらうという質問応答の方法を取り入れて行う。また、毎回、その時間で学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねていくつか質問を出す。配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出席チェックの資料となる。

評価

出席および授業中の課題への解答(30点)、試験(70点)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】江川? 成編著 『カウニング入門』 北樹出版

国分康孝著 『カウニングの技法』 誠信書房

村山正治・山本和郎[編] 『スクール カウンセラー』 ミネルヴァ書房

【参考図書】江川? 成編著 『教育相談 その理論と方法』 学芸図書

江川? 成著 『心理療法・カウニングにおける認知方略 その理論と実際』 ブレーン出版

科目名	フレッシューズセミナー		
担当教員名	鶴木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能(Study Skill)の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など

B. Study Skillトレーニング

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

評価

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する予定。

科目名	フレッシューズセミナー		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能(Study Skill)の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など

B. Study Skillトレーニング

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

評価

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する予定。

科目名	フレッシューズセミナー		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能(Study Skill)の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など

B. Study Skillトレーニング

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

評価

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する予定。

科目名	フレッシューズセミナー		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能(Study Skill)の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など

B. Study Skillトレーニング

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

評価

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する予定。

科目名	フレッシューズセミナー		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能(Study Skill)の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など

B. Study Skillトレーニング

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

評価

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する予定。

科目名	フレッシューズセミナー		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能(Study Skill)の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など

B. Study Skillトレーニング

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

評価

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する予定。

科目名	フレッシューズセミナー		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能(Study Skill)の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など

B. Study Skillトレーニング

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

評価

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する予定。

科目名	フレッシューズセミナー		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学入学後のガイダンス教育の一環として、少人数のクラス編成により、学科専任教員が担当して実施する科目である。大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、学生間の、および、教員と学生との密なコミュニケーションを図りつつ、学生の主体的な演習活動を通して、基本的な学習技法・技能(Study Skill)の育成を行う。大学では、学生自らが主体的、かつ自律的に学習することが求められていることが多い。こうした学習態度は、大学生活のみならず卒業後の職業生活や生涯学習においても重要な役割を果たすものである。

内容

A. アイスブレイク活動

自己紹介、大学生活に関する相談や質疑応答、履修方法の相談など

B. Study Skillトレーニング

- (1) 大学授業への受講技能(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
- (2) テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
- (3) 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
- (4) レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
- (5) 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
- (6) 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)

C. 学内ガイダンス

- (1) 図書・情報センター図書館(図書館本館・図書館分室)の紹介と活用法
- (2) 就職センターの紹介と活用法、キャリアガイダンス・ワークショップ

評価

発表とレポート提出(60点)および平常点(40点)によって評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介したり、資料を配布する予定。

科目名	心理検査基礎演習		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を習得することを目的とする。

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解する。
- ・各分野につき、一つもしくは二つの検査について、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得する。
- ・テストバッテリーを組み合わせ、実際の臨床的な場でどう使うのかを学ぶ。
- ・実際に検査をするときの、倫理的な面も含めた配慮点、結果の扱いの注意点を学ぶ。
- ・検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

5人の教員が3回ずつ担当し、受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

概要は以下であるが、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

検査の説明：概要、考え方、実際の用い方、注意点などの解説。

検査の実施

検査結果の集計、解釈、討論、講評

取り上げる予定の検査とグループは以下の通りである。

- (1) 文章完成法検査および投影法検査
- (2) F F P Q検査およびクレペリン検査
- (3) Y G性格検査およびV P I職業検査
- (4) W I S C 知能検査
- (5) 新版K式発達検査および園城寺式発達検査

それぞれ担当の教員がレポートを課す。レポートの詳細は担当教員の指示による。

評価

各課題についてのレポート(各17点×5=85点)と平常点(15点)により評価する。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各担当教員が指示する。

科目名	心理検査基礎演習		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を習得することを目的とする。

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解する。
- ・各分野につき、一つもしくは二つの検査について、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得する。
- ・テストバッテリーを組み合わせ、実際の臨床的な場でどう使うのかを学ぶ。
- ・実際に検査をするときの、倫理的な面も含めた配慮点、結果の扱いの注意点を学ぶ。
- ・検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

5人の教員が3回ずつ担当し、受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

概要は以下であるが、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

検査の説明：概要、考え方、実際の用い方、注意点などの解説。

検査の実施

検査結果の集計、解釈、討論、講評

取り上げる予定の検査とグループは以下の通りである。

- (1) 文章完成法検査および投影法検査
- (2) F F P Q検査およびクレペリン検査
- (3) Y G性格検査およびV P I職業検査
- (4) W I S C 知能検査
- (5) 新版K式発達検査および園城寺式発達検査

それぞれ担当の教員がレポートを課す。レポートの詳細は担当教員の指示による。

評価

各課題についてのレポート(各17点×5=85点)と平常点(15点)により評価する。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各担当教員が指示する。

科目名	心理検査基礎演習		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を習得することを目的とする。

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解する。
- ・各分野につき、一つもしくは二つの検査について、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得する。
- ・テストバッテリーを組み合わせ、実際の臨床的な場でどう使うのかを学ぶ。
- ・実際に検査をするときの、倫理的な面も含めた配慮点、結果の扱いの注意点を学ぶ。
- ・検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

5人の教員が3回ずつ担当し、受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

概要は以下であるが、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

検査の説明：概要、考え方、実際の用い方、注意点などの解説。

検査の実施

検査結果の集計、解釈、討論、講評

取り上げる予定の検査とグループは以下の通りである。

- (1) 文章完成法検査および投影法検査
- (2) F F P Q検査およびクレペリン検査
- (3) Y G性格検査およびV P I職業検査
- (4) W I S C 知能検査
- (5) 新版K式発達検査および園城寺式発達検査

それぞれ担当の教員がレポートを課す。レポートの詳細は担当教員の指示による。

評価

各課題についてのレポート(各17点×5=85点)と平常点(15点)により評価する。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各担当教員が指示する。

科目名	心理検査基礎演習		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を習得することを目的とする。

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解する。
- ・各分野につき、一つもしくは二つの検査について、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得する。
- ・テストバッテリーを組み合わせ、実際の臨床的な場でどう使うのかを学ぶ。
- ・実際に検査をするときの、倫理的な面も含めた配慮点、結果の扱いの注意点を学ぶ。
- ・検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

5人の教員が3回ずつ担当し、受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

概要は以下であるが、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

検査の説明：概要、考え方、実際の用い方、注意点などの解説。

検査の実施

検査結果の集計、解釈、討論、講評

取り上げる予定の検査とグループは以下の通りである。

- (1) 文章完成法検査および投影法検査
- (2) F F P Q検査およびクレペリン検査
- (3) Y G性格検査およびV P I 職業検査
- (4) W I S C 知能検査
- (5) 新版K式発達検査および園城寺式発達検査

それぞれ担当の教員がレポートを課す。レポートの詳細は担当教員の指示による。

評価

各課題についてのレポート(各17点×5=85点)と平常点(15点)により評価する。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各担当教員が指示する。

科目名	心理検査基礎演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を習得することを目的とする。

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解する。
- ・各分野につき、一つもしくは二つの検査について、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得する。
- ・テストバッテリーを組み合わせ、実際の臨床的な場でどう使うのかを学ぶ。
- ・実際に検査をするときの、倫理的な面も含めた配慮点、結果の扱いの注意点を学ぶ。
- ・検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

5人の教員が3回ずつ担当し、受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

概要は以下であるが、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

検査の説明：概要、考え方、実際の用い方、注意点などの解説。

検査の実施

検査結果の集計、解釈、討論、講評

取り上げる予定の検査とグループは以下の通りである。

- (1) 文章完成法検査および投影法検査
- (2) F F P Q検査およびクレペリン検査
- (3) Y G性格検査およびV P I職業検査
- (4) W I S C 知能検査
- (5) 新版K式発達検査および園城寺式発達検査

それぞれ担当の教員がレポートを課す。レポートの詳細は担当教員の指示による。

評価

各課題についてのレポート(各17点×5=85点)と平常点(15点)により評価する。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各担当教員が指示する。

科目名	心理検査法実習		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

心の状態や問題について総合的な理解・介入を行うために、情報収集をする方法のひとつに心理検査法がある。まず、心理的な査定（アセスメント）とは何かといった概論を行った上で、臨床現場で用いられる頻度の高い代表的な心理検査法を受講生自身が実際に施行し、基本的な技法、判定、結果の見方を習得する。

最後に、臨床的な事例を通し、心理検査が実際の現場でどのように生かされているかを学ぶ。

内容

教材の準備の都合上、人数を制限する可能性がある。

1. 心理アセスメントとは何か
2. ミネソタ多面人格目録（MMPI）の施行
3. ミネソタ多面人格目録（MMPI）の結果の整理
4. ミネソタ多面人格目録（MMPI）の解釈や事例
5. 田中ビネー知能検査の背景
- 6～8. 田中ビネー知能検査の施行
9. 田中ビネー知能検査の結果の整理
10. 田中ビネー知能検査の解釈や事例
11. 投影法の施行
12. 投影法の結果の整理
13. 投影法の解釈や事例
14. テストバッテリーによる事例
15. まとめ

なお、田中ビネー知能検査は、授業時間外で学外の人（できれば健康な児童）に被検査者となってもらい、実習を行うことが求められる。

評価

平常点（10点）と3種類の心理検査のレポート（3×30点＝90点）により、総合的に評価する。60点以上を合格とする。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適時、参考文献を紹介する。

科目名	カウンセリング基礎演習		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本授業では、カウンセリングや臨床心理学の基礎を学んだ受講生を対象に、実習を通してカウンセリングの技法を習得することをねらいとしている。

まず、アサーションを学ぶことにより、自分の気持ちを誠実に表現することの重要性と表現スキルを学ぶ。次に、コラージュ制作により、言語ではなく、非言語的な媒体を使用して、自分のいまの気持ちと向かい合い、表現することの体験を行う。

最後に、カウンセリングの各種の技法を復習したうえで、受講生同士で短時間のロールプレイを行う。自分がカウンセラー役、クライアント役の両方になってみるという体験を通して、カウンセリングについてどのような問題が考えられるか、また気をつけるべき点などについて多角的に議論をする。

内容

1. ガイダンス
2. アサーション・トレーニング(1)：基礎
3. アサーション・トレーニング(2)：応用(グループワーク)
4. コラージュ制作
5. コラージュ制作の発表とグループ討議
6. カウンセリング技法の復習
- 7~14. 試行カウンセリングの実践と討議
15. まとめ

* 前期「カウンセリング」を履修していること。

* 2人1ペアとなり、授業時間外で試行カウンセリングを行うこととなる。

評価

授業中の提出物(50点)、レポートもしくは授業中の発表(50点)により、評価を行い、60点以上を合格とする。なお、実習授業のため、遅刻、欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は特に指定しない。推薦書は、授業中に適宜紹介する。

科目名	発達・教育相談演習		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい：事例やロールプレイングを通して、教育相談の手順や発達障がい児への対応の仕方などについて理解を深める。

目標：：発達・教育相談に関する基本的な知識をみにつけ、発達・教育相談に携わるものとしての基本的な姿勢を身につける。

概要：不登校やいじめなどの事例や問題を抱える子どもたちへの相談場面などについて、ロールプレイングなどを通して理解する。また、事例の中で、教育相談の技法を習得するのみならず相談担当者としての資質も含めて総合的に学習する。なお、相談活動に役立つ実践的な方法として、エンカウンターグループやプレイセラピー、描画法などの臨床心理学的手法も取り入れたいと考えている。

内容

講義の方針：問題の原因を追求するだけでなく個別的实际的な取り組みが行えるように、教育相談で重要な概念について具体的体験と併せて知ることをねらいとする。

講義の進め方：事例検討やロールプレイング、描画法など実習形式を中心にとり行う予定である。

内容：不登校やいじめ、校内暴力、非行、学級崩壊、発達障害、虐待、引きこもりなどの事例検討や相談場面のロールプレイングを行う。また、ボランティアなどで個人的に体験した事例についても報告し、討論する機会を設ける。さらに、エンカウンターグループやプレイセラピー、描画法などの臨床心理学的手法を実際に体験することで、相談活動に役立つ実践的かつ具体的な方法を習得する。

本講義は、ロールプレイなど参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加への態度を求める。加えて、授業中に取り扱う各種の個人情報については、受講生といえども守秘義務を負うものであることを十分承知した上で受講することが望ましい。

受講希望者が多数の場合、受講制限を設けることがあります。

評価

【評価の方法】出席、講義への参加度、試験を総合的に評価する。配分は、出席：30点、講義レポート（講義中に数回課す予定）：20点、試験：50点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】一丸藤太郎・菅野信夫著 『学校教育相談』 ミネルヴァ書房 2002

【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008

有村久春著 『キーワードで学ぶ 特別活動・生徒指導・教育相談』 金子書房 2009
菅野純著 『教師のための学校カウンセリングゼミナール』 実務教育出版 1995

科目名	インターンシップ		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これには企業体験型、職業体験型、労働体験型、キャリアビルド型などがある。

大学での講義形式の授業とは異なり、単なる知識の習得や理解に終わるのではなく、実体験を通して現実の様子をじかに感じ取り、その現実に対応していくことの大切さを実感的に学ぶことができる。このような貴重な体験を通して、社会や企業の現実の一側面を知り、現実の仕事や職業とは何かということについて考えると共に、自己の将来設計や職業適性について自らに問う機会となることを期待したい。言い換えれば、キャリア選択に関わる自己理解の深化と自己啓発の好機となるよう取り組んでほしい。

なおインターンシップはあくまでも授業の一環として行われるものである。したがって、アルバイトとは異なる。その意味から、実習中の実労に対しては無報酬が原則である。また、交通費支給に関しても受け入れ先によって異なる。

内容

一定期間(実質10日間、実労60時間以上)、受入れ先において就業体験をする。その実施期間は夏期休暇中(前期)または春季休中(後期)が中心となる。

インターンシップ受入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。

なお詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

受入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、A~45点、B~45点、C~10点である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	インターンシップ		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これには企業体験型、職業体験型、労働体験型、キャリアビルド型などがある。

大学での講義形式の授業とは異なり、単なる知識の習得や理解に終わるのではなく、実体験を通して現実の様子をじかに感じ取り、その現実に対応していくことの大切さを実感的に学ぶことができる。このような貴重な体験を通して、社会や企業の現実の一側面を知り、現実の仕事や職業とは何かということについて考えると共に、自己の将来設計や職業適性について自らに問う機会となることを期待したい。言い換えれば、キャリア選択に関わる自己理解の深化と自己啓発の好機となるよう取り組んでほしい。

なおインターンシップはあくまでも授業の一環として行われるものである。したがって、アルバイトとは異なる。その意味から、実習中の実労に対しては無報酬が原則である。また、交通費支給に関しても受け入れ先によって異なる。

内容

一定期間(実質10日間、実労60時間以上)、受入れ先において就業体験をする。その実施期間は夏期休暇中(前期)または春季休中(後期)が中心となる。

インターンシップ受入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。

なお詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

受入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、A~45点、B~45点、C~10点である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、次のボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。

- ・新座市教育委員会「ピア・サポーター」
- ・埼玉県教育委員会「スチューデントサポータ」
- ・志木市教育委員会「中3チューター支援員」
- ・朝霞市教育委員会「学生ボランティア」

この他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1)臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2)人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 実際に活動するにあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望に沿うよう注意すること。
3. 活動を行うなかで、活動を通して学び理解したこと、大学で学習した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省すること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や収穫をまとめること。

評価

活動の合計時間が学科で定める時間等に達していることが評価の前提となる。

活動の概要および成果をレポートにまとめるとともに発表会を行う。活動受け入れ先の責任者(または担当者)から提出してもらおう活動報告とともに、レポート・口頭発表にもとづいて、総合的な評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教職志望の初学者を主な対象としつつ、学習の動機づけ、学習の基礎理論、教授学習における学習理論、教育評価と教育測定について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。さらに、障害をもった生徒の学習の過程などについても取り扱う。

児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育や学習について考えるヒントを提示するのが本講義のねらいである。

内容

1. 教育心理学とは

- ・教育活動とは何か
- ・学校教育と教育心理学

2. 学習の動機づけ

- ・欲求と動機づけ
- ・内発的動機づけ
- ・統制感、原因帰属
- ・期待 - 価値モデル

3. 学習の基礎メカニズム

- ・学習と条件づけ
- ・観察学習と学習の諸相
- ・学習における記憶の役割
- ・問題解決としての学習

4. 授業における学習理論

- ・プログラム学習、発見学習、有意味受容学習
- ・適性処遇交互作用
- ・総合的な学習の時間

5. 学習成果の評価と測定

- ・評価の意義と役割・絶対評価、相対評価、到達度評価
- ・診断的評価、形成的評価、総括的評価・心理検査と心理測定

評価

評価は、学期末試験100点満点により行う。なお、単位認定にあたっては、欠席が授業回数の1/5以下であることを必須条件とする。

評価の基準は、教育活動を理解するために有効である教育心理学の理論や知見を正確に理解し自らの知識として定着しているのかである。毎回の授業における内容を論理的に理解し、必要な事項を身につけることを求める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】桜井茂男編 『たのしく学べる最新教育心理学』 図書文化

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童生徒の心身の発達、学級・学校集団の特質、学校臨床を中心に取り上げる。学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解するとともに、児童期から青年期へと進む児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかについて、心理学的な知見を学ぶとともに、日常生活のなかでの現象を具体的に考える。さらに、障害をもった生徒の心身の発達などについても取り扱う。

本科目のねらいは、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかを、科学的かつ客観的にとらえ直す視点を提示し、分析的に理解する試みの機会を提供することにある。

内容

1. 発達

- ・発達の一般的特徴 ・遺伝的要因と環境的要因
- ・発達段階と発達課題

2. 知的能力・社会性の発達

- ・知的能力の発達 ・学力と学業不振
- ・道徳性の獲得 ・ソーシャルスキル

3. 学習者の特性理解

- ・パーソナリティの理論と測定法
- ・障害とは何か ・特別支援教育

4. 学級集団、学級の間人間関係

- ・学級集団の特殊性 ・教師期待効果
- ・学級雰囲気と目標達成 ・生徒間の人間関係

5. 学校臨床

- ・学校不適応 ・心身の健康問題とその支援

評価

評価は、学期末試験100点満点で行う。なお、単位認定にあたっては、欠席が授業回数の1/5以下であることを必須条件とする。

評価の基準は、授業内で扱った教育心理学の知見や理論を体系的に理解し自らの知識として獲得しているか、学校教育現場での諸相に獲得した知識を適用してより深い理解や支援の方法を考えることができるようになったかという点である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 桜井茂男編 『たのしく学べる最新教育心理学』 図書文化

科目名	生徒指導		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

生徒指導については、高校時代までに、指導を受けるという経験を通して、ある程度は知っているであろう。しかし、それは必ずしも当を得た理解とは限らない。そこで、生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法について、きちんと理解を図ることを目的とする。合わせて、進路指導についても同様に理解を深めることをねらう。

内容

1. 生徒指導の意義と目的
2. 生徒指導の領域・内容と課題
3. 生徒指導と教育課程との関連
4. 生徒指導の組織と計画
5. 児童・生徒理解の意義と重要性
6. 児童・生徒理解の内容
7. 児童・生徒理解の方法〔その1～観察法・面接法(その1)〕
8. 児童・生徒理解の方法〔その2～面接法(その2)・検査法・その他の方法〕
9. 生徒指導の方法原則
10. 生徒指導における集団活動の意義と重要性
11. 生徒指導における集団指導の方法
12. 進路指導の目的と内容(その1)
13. 進路指導の内容(その2)
14. 進路指導の方法
15. 試験

授業は教科書を使って行うが、必要に応じて別途、プリントや資料を配布して、講義形式で行う。そして、授業中に質問を発して、考えてもらい挙手の形で答えるという質問応答の方法を取り入れていく。

また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねて質問を発するが、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

平常点(20)と試験(80点)の計100点

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】江川? 成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書

【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所

江川? 成編集 『校長・教頭のための児童・生徒問題対応百科』 教育開発研究所

上寺久雄編 『生徒指導』 有信堂

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	学校保健		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校教育の一環として、学校保健を担う養護教諭は、学校・家庭・地域との連携のもとに学校教育における子どもの心身の健康課題解決に努めることが求められている。この観点から、学校教育における学校保健の意義、子どもの心身の健康実態の把握やその課題解決策への取組など、養護教諭に求められている学校保健活動の推進に当たっての中核的な役割を果たすための基礎となる学校保健の知識の習得を目指すものである。

内容

1	学校教育について
2	学校保健について(1)
3	学校保健について(2)
4	学校保健計画について(1)
5	学校保健計画について(2)
6	健康教育と保健教育について
7	健康観察について(1)
8	健康観察について(2)
9	健康診断について(1)
10	健康診断について(2)
11	健康診断について(3)
12	健康診断について(4)
13	疾病の予防と管理について(1)
14	疾病の予防と管理について(2)
15	試験

評価

期末テスト70点、平常点(提出物など)30点で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

「養護教諭のための学校保健」第10版 出井美智子、佐藤紀久榮、松野智子共著

(株)少年写真新聞

社

科目名	卒業論文		
担当教員名	鶴木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説をたて、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。この集大成には、最初の学術論文として通用する論文のレベルが求められる。

大学院進学希望者は必須と考えてよい。

提出論文の長さは400字詰め50枚以上とする。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求するなかで、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月末まで 卒業論文研究計画書を提出
- ・12月 卒業論文提出
- ・1月 卒業論文発表会

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）と副査（教員1名）により審査される。

その他詳細は、指導教員の指示にしたがうこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）。合格点60点。提出された論文は教員2名で審査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に対応する。

科目名	カウンセリング基礎（理論）		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

カウンセリングについて、初回面接から終結にいたるまでを、初心者にわかりやすいように解説していく。また、カウンセリングに必要とされる基本的知識、技法、倫理などについて学んでいく。

内容

- 1．はじめに
- 2．カウンセリングとは
- 3．カウンセリングの方法原則（1）
- 4．カウンセリングの方法原則（2）
- 5．カウンセリングのすすめ方（1）
- 6．カウンセリングのすすめ方（2）
- 7．ラポールと共感的理解の図り方
- 8．来談者理解の深化の方法（1）
- 9．来談者理解の深化の方法（2）
- 10．来談者理解の深化の方法（3）
- 11．働きかけの技術
- 12．主要なカウンセリング技法の概要（1）
- 13．主要なカウンセリング技法の概要（2）
- 14．主要なカウンセリング技法の概要（3）
- 15．カウンセラーになるための心得と訓練について

評価

平常点30点、期末試験70点で評価する。

合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

江川? 成編 カウンセリング入門 北樹出版 2009

科目名	カウンセリング基礎（理論）		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間発達心理学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

カウンセリングについて、初回面接から終結にいたるまでを、初心者にわかりやすいように解説していく。また、カウンセリングに必要とされる基本的知識、技法、倫理などについて学んでいく

内容

1. はじめに
2. カウンセリングとは
3. カウンセリングの方法原則（1）
4. カウンセリングの方法原則（2）
5. カウンセリングのすすめ方（1）
6. カウンセリングのすすめ方（2）
7. ラポールと共感的理解の図り方
8. 来談者理解の深化の方法（1）
9. 来談者理解の深化の方法（2）
10. 来談者理解の深化の方法（3）
11. 働きかけの技術
12. 主要なカウンセリング技法の概要（1）
13. 主要なカウンセリング技法の概要（2）
14. 主要なカウンセリング技法の概要（3）
15. カウンセラーになるための心得と訓練について

評価

平常点30点、期末テスト70点により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

江川? 成編 カウンセリング入門 北樹出版 2009